

平成 30 年度（平成 29 年度対象）

**教育委員会の事務の点検及び評価
結果報告書**

平成 30 年 9 月
高岡市教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

高岡市教育委員会では、同法の趣旨に添って「教育委員会の点検及び評価」を行い、報告書にまとめ、市議会並びに市民の皆様に対して公表するものであります。

この公表により、市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政の推進の一助となれればと考えております。

なお、今後とも点検及び評価の方法の一層の改善と施策への反映に努力してまいり、市民並びに議員各位のご意見等を賜れば幸いです。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検及び評価実施方針	1
II	教育委員会の運営状況	
1	教育委員会の組織・開催状況及び議決内容	2～3
2	平成29年度 教育委員会事務局の事務分掌	4
3	教育費決算額	5
III	教育委員会の事務事業の執行状況	
1	施策の体系	6
2	主要事業の点検・評価	7～61
IV	点検及び評価に対する外部有識者による意見	62～66

I 点検及び評価実施方針

1 点検及び評価の対象

平成 29 年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況

2 点検及び評価の方法

(1) 自己点検評価

平成 29 年度の教育委員会の運営状況、「平成 29 年度高岡市教育委員会重点施策」に定める事務事業の執行状況について点検及び評価を行う。

重点施策（小分類）毎のシートを作成し、主要な施策・事業について、次の 4 段階による評価を行う。

A：十分達成できた。

B：概ね達成できた。

C：やや不十分

D：不十分

(2) 外部有識者の知見の活用

教育に関し学識経験を有する方など外部の方々のご意見をお聞きし、本書に記載する。

(50 音順 敬称略)

氏名	所属等	備考
中村 総一郎	高岡市 P T A 連絡協議会会長	社会教育
藤森 亮平	公益社団法人高岡青年会議所 理事長	経 済
牧 てるよ	元定塚小学校長	学校教育

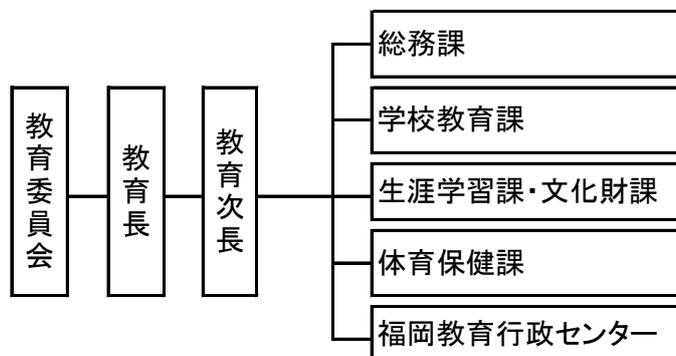
3 高岡市議会への報告及び公表

点検及び評価に関する報告書を作成し、これを市議会に提出するとともに、高岡市ホームページへの掲載、情報公開窓口への備え付け等により公表する。

Ⅱ 教育委員会の運営状況

1 教育委員会の組織・開催状況及び議決内容

(1) 教育委員会の組織



<教育委員名簿>

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

職名	氏名	就任年月日	任期
教育長	米谷 和也	平 29. 4. 1	平 29. 4. 1～平 32. 3. 31
教育長職務代理者	河田 悦子	平 22. 12. 2	平 22. 12. 2～平 26. 12. 1 平 26. 12. 2～平 30. 12. 1
委員	長谷田 祐一	平 25. 12. 2	平 25. 12. 2～平 29. 12. 1 平 29. 12. 2～平 33. 12. 1
委員	森 美和	平 27. 4. 1	平 27. 4. 1～平 27. 12. 1 平 27. 12. 2～平 31. 12. 1
委員	土田 一清	平 28. 12. 2	平 28. 12. 2～平 32. 12. 1

(2) 教育委員会の開催数及び付議案件数

区分	開催数	付議案件数
定例会	12 回	38 件
臨時会	1 回	2 件
計	13 回	40 件

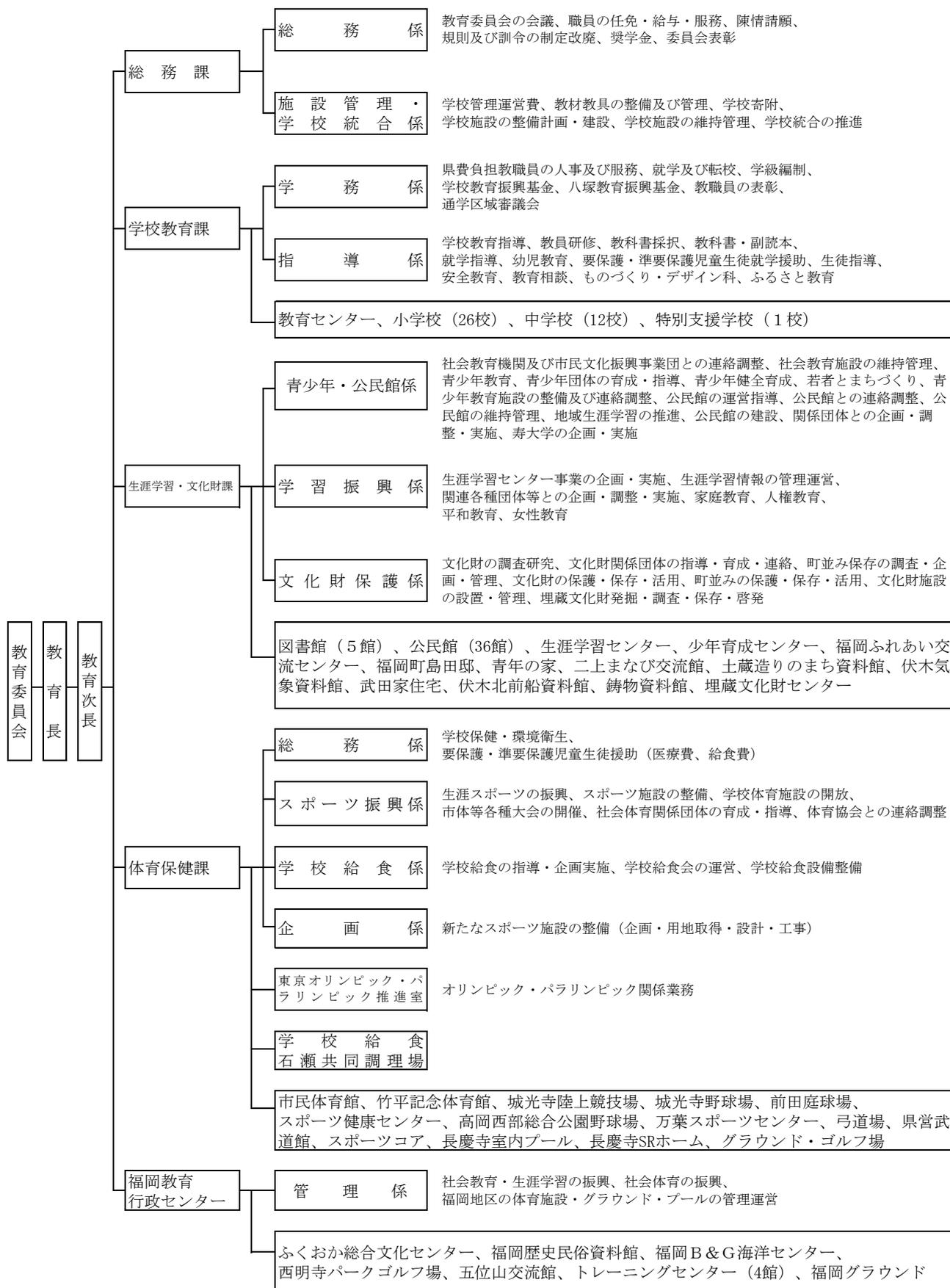
(3) 付議案件の内容

付議案件の内容	件数		
	計	定例会	臨時会
教育委員に関する事	—	—	—
議会の議決を経るべき議案に関する事	5(5)	5(5)	—
規則、訓令等に関する事	13	13	—
職員人事に関する事	5	3	2
各種委員会委員の委嘱等に関する事	13	13	—
その他	4	4	—
計	40(5)	38(5)	2

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)()は教育長臨時代理によるもの。

2 平成 29 年度 教育委員会事務局の事務分掌

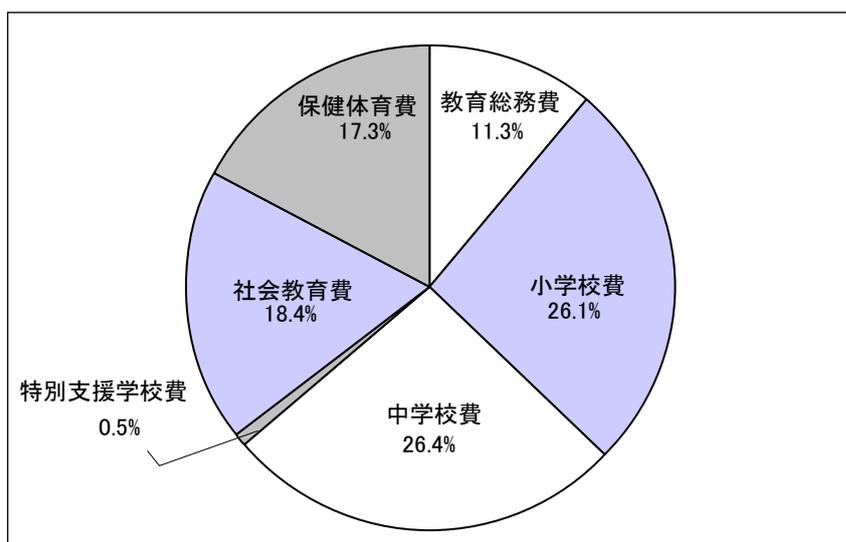
平成29年 4 月 1 日現在



3 教育費決算額

○平成 29 年度教育費決算額

区分	金額(千円)	構成比	備考(主な内容)
教育総務費	698,426	11.3%	ものづくり・デザイン科推進事業 「高岡再発見」プログラム事業
小学校費	1,612,720	26.1%	野村小学校体育館改築事業
中学校費	1,634,935	26.4%	五位中学校グラウンド改修事業、志貴野中学校 校舎改築事業
特別支援学校費	29,066	0.5%	教材教具整備、施設営繕、看護師配置事業、 心身障害児交流活動推進事業
社会教育費	1,137,322	18.4%	社会教育施設管理事業、文化財保存事業
保健体育費	1,071,671	17.3%	体育施設管理事業、オリンピック・パラリンピック 対策事業
合計	6,184,140	100.0%	



○前年度との比較

区分	平成 28 年度 (千円)	平成 29 年度 (千円)	前年度比較 増減 (千円)	対前年度 伸び率
教育総務費	734,167	698,426	△35,741	△4.87%
小学校費	2,039,740	1,612,720	△427,020	△20.94%
中学校費	1,219,528	1,634,935	415,407	34.06%
特別支援学校費	33,420	29,066	△4,354	△13.03%
社会教育費	2,074,463	1,137,322	△937,141	△45.18%
保健体育費	1,036,546	1,071,671	35,125	3.39%
合計	7,137,864	6,184,140	△953,724	△13.36%

Ⅲ 教育委員会の事務事業の執行状況

○平成 29 年度高岡市教育委員会重点施策

大分類	小分類
1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造	(1) 創造性に満ちた学校経営の推進 (2) 確かな学力をはぐくむ学習指導の充実 (3) 豊かな心をはぐくむ教育の推進 (4) 健やかな体をはぐくむ教育の充実 (5) 情報化、国際化に対応した教育の推進 (6) 特別支援教育の推進 (7) 教育効果を高める教育環境の整備
2 社会全体で人を育む絆の創造	(1) 学校、家庭、地域の連携による児童生徒の健全育成 (2) 家庭や地域の教育力の向上 (3) ふれあいと語らいの生まれる生涯学習の機会と場の提供
3 うるおいと活気に満ちた学習機会の創造	(1) 地域に根ざした学習活動の育成 (2) 生涯学習体制の充実 (3) 若者が主体となるまちづくりの推進 (4) 生涯スポーツ活動の充実 (5) スポーツ施設の充実と効率的な活用
4 誇りをもって夢を語れるふるさとの創造	(1) 将来の生き方を考える教育の充実 (2) 歴史・文化資産を活かしたまちづくりの推進 (3) 埋蔵文化財の調査・研究・活用の推進

基本方針 1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

重点施策(1) 創造性に満ちた学校経営の推進

- ・各学校の教育目標の実現に向けて、創意工夫を生かした教育課程の編成と実施に努め、特色ある学校づくりを推進する。
- ・日々の実践に基づいたOJTの推進等、研修の方法や形態を工夫し、教師一人ひとりの指導力を高め、信頼される学校づくりに努める。
- ・幼・保、小、中学校が、互いの教育内容や方法に対する理解を深め、学習面や行事・交流活動等における連携を推進する。

幼保小連携の推進

担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	— 千円(前年度 — 千円)
内容	幼稚園や保育園、認定こども園と小学校との連携を図る。
取組状況	<p>小学校では、全ての学校で新入生に関する連絡会や、保育・授業参観を行っている。また、夏休み期間中等において、小学校の教員が幼稚園等の授業に参加している学校もある。</p> <p>きずな子ども発達支援センター特別支援教育指導員が全小学校を訪問し、課題のある児童に対する指導法についての助言を行っている。</p>
成果と課題	<p>連絡会や参観等を通して、互いの教育内容について理解を深め、小1プロブレム等が起きないように研修を行っている。入学後にも、情報交換を活発に行い、個別の教育的ニーズに応じた指導に生かしていく必要がある。</p>
今後の方向性	<p>幼稚園や保育園、認定こども園と小学校との円滑な接続に向けて、小学校は、保育・授業参観や連絡会等を通じて、新1年生に関する情報収集に努める。</p> <p>就学後の特別な指導や支援が必要な児童については、きずな子ども発達支援センターと連携し、特別支援教育指導員からの助言も受けて、小学校の受入体制を整え指導・支援に生かす。</p> <p>きずな子ども発達支援センター特別支援教育指導員による小学校訪問による指導助言は定期訪問に加え、助言が必要となった小学校からの要請にも積極的に応じるように努める。</p>

【施策に関する指標等】

きずな子ども発達支援センターによる学校訪問

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小学校・こまどり支援学校への訪問支援数	68 回	74 回	82 回

評価

B
(前年度 B)

小中連携の推進	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	— 千円 (前年度 — 千円)
内容	小学校と中学校との連携を図る。
取組状況	中学校では、全ての学校において小学校との連絡会や互見授業を行っている。また、小学校では、中学校教員の専門性を生かした出前授業や、陸上競技や合唱・合奏の特別指導が行われている。
成果と課題	連絡会や互見授業等を通して、小、中学校が互いの教育内容や指導方法に関する理解を深めた。今後も、中学校区毎の小・中合同研修会を積極的に行い、中1ギャップ対策などの観点から、さらに連携した指導を進めていく必要がある。
今後の方向性	<p>これまで実施してきた出前授業や小中連絡会等を継続する。</p> <p>また、市内3中学校区において、中学校教員による小学校での英語科及び音楽科の乗り入れ授業を実施するとともに、全ての中学校区において、小中合同研修会や公開授業への相互参観等を実施し、小中連携を推進する。</p> <p>国吉小学校と国吉中学校を「小中一貫教育推進モデル校」に指定し、児童生徒の相互交流や乗り入れ授業、合同研修会等を実施し、小中一貫教育の効果的な在り方について実践研究を推進する。</p>

【施策に関する指標等】

小・中学校の連携※ (単位：%)

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小学校	高岡市	40.7	19.2	38.4
	富山県	57.2	42.4	45.3
	全国	66.7	62.5	64.7
中学校	高岡市	58.3	25.0	58.3
	富山県	67.1	59.2	56.4
	全国	75.5	72.6	74.8

※全国学力・学習状況調査において、「近隣等の小(中)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行ったか」との質問に対し、「よく」「どちらかといえば」行っていると答えた学校の割合

評価
B (前年度B)

基本方針 1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

重点施策(2) 確かな学力をはぐくむ学習指導の充実

- ・教師の指導技術を高め、児童生徒の学習意欲の向上や基礎的・基本的な内容の確実な習得と自ら学び自ら考える力の育成を図る。
- ・チームティーチングや少人数指導、補充的な学習や発展的な学習などを取り入れた指導により、個に応じた指導を充実する。
- ・体験的な学習や問題解決的な学習などを取り入れ、児童生徒の自主的・自発的な学習の展開に努める。
- ・評価規準や評価方法を明確にし、指導と評価の一体化を図る。
- ・小学校・中学校では学習指導要領に基づき、その内容を適切に取り扱うとともに、円滑な教育活動に努める。

少人数教育推進事業	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	14,416千円(前年度16,979千円)
内容	36人以上の児童が在籍する多人数学級や30人を超える学級を多く有する学校において、市任用の教員を配置し、少人数指導の在り方について研究し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。
取組状況	野村小、能町小、下関小、福岡小の4校を研究指定校とし、7名の臨時的任用講師(マイタウンティーチャー)(うち1名は非常勤)を配置。少人数指導やチームティーチング、個別指導による教科指導を実施。
成果と課題	児童の学習状況が把握しやすく、一人一人に応じたきめ細かな指導ができることで、多くの子供に「できた、分かった」という学ぶ喜びを味わわせ、学習意欲の向上を図ることができた。また、実験や実習を行う教科での安全面の確保、普通教室に在籍する特別な支援を要する児童に寄り添って指導することができるなど、効果があった。 今後、研究指定校の選定方法及び講師配置人数の検討、より効果的な指導法の工夫・改善が課題となる。
今後の方向性	今後も新学習指導要領実施を見据え、市教育センターの研修および校内での研修を充実させることで、教員の指導力向上に努めていく。 県任用の少人数指導教員の配置校や配置数を踏まえ、市内小学校の配置校を決定する。また、1日勤務の臨任講師の数を減らし、短時間勤務の非常勤講師を増やすことで、配置校増加となることを検討していく。

【施策に関する指標等】

個に応じた指導※ (単位：%)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	高岡市	48.1	61.5	65.4
	富山県	38.1	41.4	41.0
	全国	44.2	45.3	47.1

※全国学力・学習状況調査において、「調査対象学年に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習熟できるようにしましたか」との質問に対し、「年間授業のうち、おおよそ1/4以上行った」と答えた学校の割合

評価

A
(前年度A)

指導力向上の推進	
担当課等	教育センター
事業費(決算額)	1,541千円(前年度1,531千円)
内容	学力向上研修・若手教員研修・教科指導員研修、道徳教育研修、特別支援研修等、確かな学力をはぐくむための教員研修を実施し、教員の資質向上を図る。新学習指導要領の実施に向けて、学習指導の工夫・改善に生かす。
取組状況	今日的な課題や過去の研修評価を踏まえ、年間14回の教員研修会と13回の研究委員会を実施し、約700名の参加があった。 理科教材開発研究委員会において、各学校での理科実験に役立つ「実験器具早わかりカード」等を作成した。また、外国語(英語)教育推進委員会においては、アルファベットや基本的な表現について「書く」ことに慣れ親しむ「TakaokaEプリ、Aプリ」を作成した。
成果と課題	教員研修会参加者のほぼ全員が、研修会の内容に満足と答えている。各委員会では、担当教師の成長が見られた。 3学期に各委員会で作成したカードやワークシート、DVD等を小中学校へ配付した。今後、この研究委員会で作成した資料の活用を積極的に図る。また、現場で役立つ教材開発と資料づくりを進めていきたい。
今後の方向性	新学習指導要領の移行期間、若手教員の増加等、学校現場のニーズを把握し、研修や研究委員会の在り方を工夫する。また、小・中学校の連携研修も工夫していきたい。

【施策に関する指標等】					評価
高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標		
		2017年度	2017年度	2021年度	
教員研修評価アンケートにおける満足率	—	97%	70%	80%	A (前年度A)

【施策に関する指標等】									
全国学力・学習状況調査 平均正答率(単位:%) ※平成28年度から整数値での公表									
		小学校6年				中学校3年			
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平成27年度	高岡市	75.7	69.6	78.5	47.7	77.3	67.4	67.0	43.3
	富山県	72.9	70.1	78.5	47.5	78.1	68.2	67.1	44.5
	全国	70.0	65.4	75.2	45.0	75.8	65.8	64.4	41.6
平成28年度	高岡市	75	60	81	51	79	72	67	50
	富山県	75	61	81	51	78	71	65	49
	全国	73	58	78	47	76	67	62	44
平成29年度	高岡市	78	60	82	47	80	76	68	52
	富山県	78	60	82	47	80	75	68	50
	全国	75	58	79	46	77	72	65	48

基本方針 1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

重点施策(3) 豊かな心をはぐくむ教育の推進	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の生命や人権を尊重する教育を推進する。 ・ 自然との共生を大切にする教育の充実に努める。 ・ 温かい人間関係を基盤とし、自己存在感や自己有用感を高める教育の展開に努める。 ・ 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて、道徳教育の充実に努める。 ・ 互いの違いやよさを認め、高め合う、生徒指導の充実に努める。 ・ 不登校や暴力行為など生徒指導上の諸問題に対しては、全校体制による組織的な対応に努め、適切な指導や援助を行う。 ・ 学校図書館の機能を充実し、児童生徒の読書意欲を高め、豊かな感性をはぐくむ。 	

心の教育推進事業	
担当課等	学校教育課、教育センター
事業費(決算額)	いじめ・不登校対策事業費 1,127千円(前年度 1,471千円) 不登校児童生徒対策事業費 7,240千円(前年度 7,150千円)
内容	不登校・いじめ等の未然防止に向けた取り組みを進めるとともに、教育相談の充実を図る。
取組状況	<p>小学校3校に心の教室相談員を配置し、悩みをもつ児童や保護者との面談を行い、問題解決につなげるよう支援している。</p> <p>市適応指導教室には、18名の児童生徒が通級し、居場所づくり、自立支援に向けた取り組みを行っている。</p> <p>スクールソーシャルワーカー4名が年間813時間配置され、家庭等に問題があり、学校だけでは困難な事例に対応している。</p>
成果と課題	<p>いじめ認知件数については、前年度と比べて、小学校では11件、中学校では8件の増加であった。また、不登校児童生徒数については、小学校では21名増加し、中学校では同数であった。</p> <p>今後も、教育相談を充実し、児童生徒及び保護者に対する支援体制の充実に努めたい。</p>
今後の方向性	<p>いじめは「どの子にも起こり得る」との意識をもち、未然防止と早期発見、早期対応に努めたい。</p> <p>不登校、登校しぶりの児童生徒が増加傾向(特に小学校)にあり、早期対応・支援が求められている。今後も、教育相談を充実し、児童生徒及び保護者に対する支援体制の充実に努めたい。</p> <p>平成30年度から県よりスクールソーシャルワーカーは、全中学校区に1名ずつ派遣されることになった。</p>

【施策に関する指標等】			
いじめ認知件数			
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小学校	69	64	75
中学校	34	27	35
不登校児童生徒数（年間 30 日以上欠席者）			
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小学校	41	42	63
中学校	104	93	93
心の教室相談員配置状況			
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
配置小学校数	5 校	5 校	3 校
相談件数	504 件	491 件	253 件

評価
B
(前年度 B)

学校図書館機能の充実													
担当課等	学校教育課、教育総務課												
事業費（決算額）	学校司書配置事業費 25,306 千円（前年度 24,551 千円） 学校図書購入費 27,178 千円（前年度 27,796 千円）												
内容	児童生徒の主體的・意欲的な学習活動や読書活動を推進するため、学校図書館機能の充実を図り、読書を通じて豊かな人間性や感性、読解力等を育む。												
取組状況	<p>○学校司書の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内 39 校に 29 名（専任 19 名、兼任 10 名）を配置 全学校図書館の蔵書情報のデータベース化 読み聞かせをはじめとした各校の工夫ある取組により、子供たちの本への興味、関心が高まっている。児童生徒の月平均貸出冊数も、3.90 冊と前年度に比べ増加傾向にある。 <p>○学校図書館図書の整備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>購入冊数</td> <td>16,598 冊</td> <td>16,643 冊</td> <td>15,443 冊</td> </tr> <tr> <td>寄附冊数</td> <td>1,125 冊</td> <td>954 冊</td> <td>1,033 冊</td> </tr> </tbody> </table>		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	購入冊数	16,598 冊	16,643 冊	15,443 冊	寄附冊数	1,125 冊	954 冊	1,033 冊
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度										
購入冊数	16,598 冊	16,643 冊	15,443 冊										
寄附冊数	1,125 冊	954 冊	1,033 冊										
成果と課題	図書の利用状況等が適時に把握でき、児童生徒への教育支援の一助となっている。今後も、学校図書館の充実に向けた司書の配置に努めていく必要がある。												
今後の方向性	学校司書は児童生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養ううえで学校教育上重要な役割を担っており、学校図書館を学習センターとして有効活用するためにも不可欠である。専任配置 19 校、兼任配置 20 校の市内小・中・特別支援学校全校に配置している。 また、学校図書館図書の一層の充実に向けていく。												

【施策に関する指標等】

高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
		2017年度	2017年度	2021年度
児童・生徒1人当たりの 学校図書貸出冊数	—	3.9冊	3.8冊	4.0冊

評価
B (前年度B)

基本方針 1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

重点施策(4) 健やかな体をはぐくむ教育の充実

- ・ 基本的な生活習慣の確立を基盤に、学校における体育、部活動等の充実を図り、健康でたくましい児童生徒の育成に努める。
- ・ 定期健康診断、小児生活習慣病予防対策、感染症対策等の健康管理の充実に努め、学校・家庭・関係機関と連携をとりながら、児童生徒の健やかな心身の育成を図る。
- ・ 学校給食を通して、児童生徒に正しい食事の在り方や望ましい食習慣を学ばせるなど食育の推進を図るとともに、安全かつ安心な学校給食の提供に努める。
- ・ 緊急を要する医療事故や火災、地震、不審者等に備えた訓練を実施するなど、防災・安全教育を推進する。

部活動育成事業	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	4,726 千円 (前年度 4,626 千円)
内容	スポーツの専門的な技術指導者を派遣し、運動部顧問と連携を取りながら、中学校の運動部活動の充実と生徒の体力向上を図る。
取組状況	実技指導力を有する非常勤講師 95 名をスポーツエキスパートとして委嘱し、市内 12 中学校に派遣している。 指導時間は 1 回あたり 2 時間程度とし、スポーツエキスパート 1 人につき、概ね年間 24 回の派遣回数となっている。
成果と課題	スポーツエキスパートの指導により、運動部活動の充実とともに地域社会との連携協力が推進された。 また、今後もスポーツエキスパートの資質向上を目的とした指導法等の研修会(県教育委員会主催で年 3 回程度開催)の受講について、引き続き周知していく必要がある。
今後の方向性	平成 30 年度より新たに部活動指導員を導入し、教員の負担解消への効果や、運営方法の課題などを検証したうえで、次年度以降の配置について検討していく。スポーツエキスパートについては、総数を前年同程度に確保しながら、引き続き運動部活動の競技力向上を図っていく。

【施策に関する指標等】

スポーツエキスパートの配置

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
96 人	94 人	95 人

評価

B
(前年度 B)

学校保健対策事業	
担当課等	学校教育課（平成 29 年度 体育保健課）
事業費（決算額）	児童・生徒健康診断費 26,097 千円（前年度 26,166 千円） 保健管理指導費 12,995 千円（前年度 13,209 千円） 小児生活習慣病対策事業費 6,705 千円（前年度 6,728 千円）
内容	定期健康診断や小児生活習慣病予防対策等の健康管理の充実に努め、 学校・家庭・関係機関と連携をとりながら児童生徒の健やかな心身の育 成を図る。
取組状況	小・中・特別支援学校に学校医(70名)、学校歯科医(36名)、学校薬剤 師(22名)を委嘱し、定期健康診断(受診率 100.0%)、心臓病検診(受診率 100.0%)、小児生活習慣病予防健診(受診率 92.6%)等を行い、疾病の早 期発見や健康保持に努めた。 プールの水質検査や学校環境衛生検査(飲料水、照度、二酸化炭素等) を実施し、より良い環境の充実整備に努めた。
成果と課題	定期健康診断、心臓病検診、小児生活習慣病予防健診等の実施により、 疾病の早期発見を図り、生活改善や早期治療の勧奨に努めている。小児 生活習慣病を予防するためには、食生活等、家庭における正しい生活習 慣が大切であり、家庭への周知と連携を密にしていく必要がある。 また、本市中学校 1 年生の市町村別むし歯保有本数は県内で最も多く、 全国平均を越える本数を保有しているのは、県内で本市だけであり、む し歯予防の対策が必要である。
今後の方向性	引き続き、学校三師と連携を図りながら、児童生徒健康診断等を実施 し、疾病の予防と事後指導の充実に努めていく。 また、若年化している生活習慣病の早期発見・予防を図るため、引き続 き小児生活習慣病健診を行う。その結果に基づいて事後指導を的確に行 うための対策を検討するため、関係機関と連携し対策協議会や研修会を 開催する等、小児生活習慣病対策の充実に努めていく。 むし歯予防対策としては、市内小学校において、フッ化物洗口を導入 し、ブラッシング指導と併用して取り組む。

【施策に関する指標等】
 小児生活習慣病予防健診（単位：％）

	平成 27 年度			平成 28 年度			平成 29 年度		
	異常 なし	要注 意	要精 検	異常 なし	要注 意	要精 検	異常 なし	要注 意	要精 検
小学 4 年生	70.1	24.1	5.8	61.9	29.7	8.4	62.7	29.9	7.4
	受診率 95.8			受診率 95.8			受診率 95.5		
中学 1 年生	65.5	28.4	6.1	64.3	29.7	5.9	60.7	33.4	5.9
	受診率 92.0			受診率 92.5			受診率 93.3		

評価
B (前年度 B)

学校給食対策事業	
担当課等	学校教育課（平成 29 年度 体育保健課）
事業費（決算額）	学校給食指導費 4,245 千円（前年度 5,156 千円） 学校給食運営管理費 158,734 千円（前年度 155,921 千円） 学校給食設備整備費 23,186 千円（前年度 23,575 千円） 石瀬共同調理場施設管理運営費 79,606 千円（前年度 90,214 千円）
内容	地産地消を取り入れた安全で安心な学校給食の提供と、学校における食育の推進に努める。また、給食調理業務の円滑な運営と給食の質の向上に努める。さらに、食物アレルギーを持つ児童生徒に対して、適切な対応に努める。
取組状況	学校給食を活用した食育の推進を図り、地元産品の使用を一層進めるとともに、食中毒防止・異物混入防止を中心とした衛生管理の徹底により、児童生徒に安全で安心な学校給食を提供している。中学校全 12 校の給食調理業務を民間委託し、運営の効率化に努めている。 各中学校調理場 8 校 共同調理場 4 校 アレルギーの症状や原因食材の種類・数に応じ、学校や調理場の現状を踏まえ、保護者と連携するなかで、可能な限り、除去食・代替食等の対応を行っている。
成果と課題	各学校における食に関する指導の充実や、地元産品の使用拡大・活用推進及び衛生管理の徹底、調理機器・設備等の更新により、安全・安心な学校給食を提供している。 給食調理業務委託業者などに対する衛生管理指導を一層徹底し、引き続き、調理業務の円滑な運営と学校給食の充実に努めている。 「高岡市アレルギー緊急対応マニュアル」を活用し、迅速・的確な対応ができるよう努めている。
今後の方向性	今後も引き続き、食育の推進を図り、地元産品使用拡大・活用推進できるように関係機関との連携を密にし、食中毒防止・異物混入防止・アレルギー事故の防止等衛生管理を徹底し、安全で安心な学校給食の提供に努める。

【施策に関する指標等】				
高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
	2015 年度	2017 年度	2017 年度	2021 年度
学校給食に使用する 地場産食材の品目	24 品目	24 品目	26 品目	26 品目

評価
B (前年度 B)

基本方針 1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

重点施策(5) 情報化、国際化に対応した教育の推進

- ・ コンピュータ等の教育機器や情報通信ネットワークを活用して、情報及び情報手段を適切に選択・活用できる学習活動に努める。
- ・ 校内研修等で、教師のICT活用指導力の向上を図り、児童生徒の情報活用能力や情報モラルの育成に努める。
- ・ 外国人児童生徒への支援を充実し、ともに助け合いながら学ぶ姿勢をはぐくむ。
- ・ 帰国児童生徒、外国人児童生徒、外国語指導助手等とのふれあいを通して、外国の文化や生活を理解し、国際的な視野を広め、多文化共生を推進する。

ICT環境の整備・活用	
担当課等	教育総務課、学校教育課
事業費(決算額)	62,515千円(前年度63,240千円)の一部
内容	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る。また、ICTの活用を図り、児童生徒の学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や主体的・協働的な学びを促し、確かな学力の育成に努めるとともに児童生徒の情報活用能力や情報モラルを育成に努める。
取組状況	<p>近年、通信データの大容量化等の影響により、本市小中学校においてコンピュータの使用が集中する時間帯にインターネットの通信速度が遅くなり、授業への活用に支障が出るという課題があった。このため、平成29年度に、小・中・特別支援学校39校に光回線を導入し、通信環境の向上を図った。</p> <p>光回線の導入により今までより通信速度が速くなることで、児童生徒がインターネット上の豊富な材料や最新情報で興味や関心を高めるとともに、必要な情報を効率的に取捨選択し自分の考えを深めるなど、効果的な活用を図っている。</p> <p>各学校においては、電子黒板、プロジェクター、実物投影機等を積極的に活用し、分かりやすい授業に努めている。また、こまどり支援学校では、iPadのカメラ機能を使用して、発音練習をするなどICTを効果的に活用し児童生徒の障害の状態や特性等に応じて支援している。</p> <p>また、情報モラルについては、志貴野中学校で生徒と教員、保護者らでネット利用を考える「ネットルール集会」を行い、トラブルに巻き込まれない方法を生徒自らが考えるなど、情報モラルの育成に努めている。</p>
成果と課題	<p>各学校では、電子黒板や実物投影機、タブレット等、ICTを活用した授業を充実させることで、児童生徒に興味・関心をもたせ、学習意欲の向上と分かる授業づくりに努めている。特に、小学校では、総合的な学習の時間の他に、国語や算数など主要教科での活用も増加している。</p> <p>一方、ICT環境整備については、国が策定した「2018年度以降の学</p>

	<p>校におけるICT環境の整備方針」や「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」で示している無線LANや黒板などの整備目標水準を本市は大きく下回っている状況である。</p> <p>また、ネット利用の低年齢化に対応し、主体的なネットルールづくりを小学校にも拡大していく必要がある。</p>
今後の方向性	<p>新学習指導要領におけるICTを活用した学習活動を踏まえ、限られた予算を有効に活用しながら必要な環境整備を進めていく。</p> <p>新学習指導要領では、小学校において「プログラミング教育」が必修化される。そのことを見据え、研究会などを通して全教職員に「プログラミング教育」の趣旨を共有するとともに、情報教育推進研究会等と連携しながら「プログラミング教育」が円滑に実施されるよう取り組んでいく必要がある。</p> <p>情報モラルの育成については、ネット利用アンケートを実施したり、中学校でのルールづくりの事例を学んだりして、学校の実情に合った決まりを考える機会を設けていく。</p>

【施策に関する指標等】
平成28年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果
(平成29年3月現在)

	教育用コンピュータ 1人当たり 児童生徒数 (国目標 3.6人/台)	普通教室の 無線LAN整備率 (国目標 100%)	普通教室の 電子黒板整備率 (国目標 100%)
高岡市	7.3人	0.0%	15.7%
富山県	5.8人	5.7%	19.7%
全国	5.9人	29.6%	24.4%

評価
C (前年度 —)

【施策に関する指標等】
ICTの活用※ (単位：%)

		平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		国語	算数 (数学)	協働 学習等	国語	算数 (数学)	協働 学習等	国語	算数 (数学)	協働 学習等
小学校	高岡市	18.5	51.8	59.2	38.5	65.4	69.2	46.1	61.5	73.0
	富山県	51.6	67.0	69.6	58.6	72.8	77.5	60.5	76.9	72.1
	全国	37.5	46.0	66.1	42.7	51.0	68.4	44.9	55.4	71.6
中学校	高岡市	0.0	16.7	33.4	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	33.3
	富山県	12.9	22.4	50.6	12.3	25.9	58.0	21.2	31.8	62.4
	全国	16.4	27.8	53.3	20.2	31.6	56.8	25.3	20.8	63.8

※全国学力・学習状況調査において、「情報通信技術を活用して授業等を行ったか」との質問に対し、「よく」「どちらかといえば」行っていると答えた学校の割合

国際理解教育推進事業	
担当課等	学校教育課、教育センター
事業費(決算額)	高岡イングリッシュセミナー事業費 112千円(前年度 —) 外国青年講師招致等事業費 41,799千円(前年度 43,248千円) 英語等活動推進事業費 10,688千円(前年度 10,069千円)
内容	A L T (外国語指導助手)等との触れ合いを通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、外国の文化や生活を理解し、国際的な視野を広げる。また、児童生徒に、郷土を愛する心を育み、高岡のよさを英語で紹介できるコミュニケーション能力を身に付けさせる。
取組状況	<p>J T E (日本人の英語活動講師) 5名を小・特別支援学校に、A L T 10名に加えて英語専科教員3名(5校)を小・中・特別支援学校に配置し、国際理解教育の推進に努めている。</p> <p>英語を使って積極的に郷土を紹介しようとする児童生徒の育成を目指す高岡イングリッシュセミナー事業の初年度(3か年計画)である。</p> <p>「英語イングリッシュセミナー‘2017’」では次のような活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で、校区の特色(名所・祭り等)を発表する中学生のプレゼンテーション ・「高岡オリジナルすごろく」等を楽しむ英語ゲーム ・小・中学生がA L Tとの英会話、英語クイズを楽しむ古城公園ウォークラリーの実施 <p>外国語教育推進委員会では、小学校の外国語活動で、「書く」活動に慣れ親しむことができるように「TakaokaEﾌﾟﾘ」「TakaokaAﾌﾟﾘ」を作成し、小中学校への配付(DVD、CD付)した。</p> <p>さらに、平成30年度からの新学習指導要領移行期間に向け、「外国語・外国語活動新教材に関する研修」「小学校外国語新教材を用いた指導法に関する研修」を開催した。(教員、A L T、J T Eが参加)</p>
成果と課題	<p>高岡イングリッシュセミナー事業(H29～)では、I LOVE TAKAOKAプログラム事業(H24～H28)を継承し、高岡のよさを知り、進んで英語でコミュニケーションを図る場を工夫した。</p> <p>「校区の特色等の紹介」では、中学生が小学生やA L Tに校区について英語で紹介することで、英語で伝える喜びや自信につながった。</p> <p>また、英語ゲームや古城公園ウォークラリーでは、小・中学生が英語に親しみ、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを味わうことができた。</p> <p>「TakaokaEﾌﾟﾘ」「TakaokaAﾌﾟﾘ」は小学校外国語教材「We can 1」(文部科学省)に対応し、書くことに慣れ親しむワークシートである。今後小学校での使用を促進し「書く」活動の充実に生かしていきたい。</p> <p>新学習指導要領において、3、4年生で外国語活動が導入され、5、6年生で教科化となる。学級担任の英語指導力の向上を図るため、今まで以上に教員研修を充実させることが必要である。</p>

今後の方向性	<p>外国人児童生徒教育については、外国人相談員の配置により、児童生徒の日本語の習熟や学力の向上等に大きな成果を上げている。外国人児童生徒への支援は、日本人児童生徒が安心して楽しく学校生活を送り、多文化共生の意識を育むうえでも大切であり、本事業の一層の充実を図る必要がある。</p> <p>国際理解教育については、小学校での外国語活動及び総合的な学習の時間や、中学校での英語の授業において、ALT の活用等により児童生徒の外国の文化や生活に対する興味・関心が高まっている。</p> <p>平成 30 年度から、新学習指導要領への移行期間に入る。教員の新学習指導要領の理解、新教材の活用のための研修を今後も継続して行ってきたい。また、指導内容、教材の効果的な活用等について、学級担任、英語専科教員、ALT、JTE が連携し指導の充実を図っていく必要がある。</p> <p>そのためにも高岡イングリッシュセミナーは、児童生徒はもちろん、教員も英語に親しむことができるように内容を工夫していきたい。また、小学校外国語教材作成を継続して行うとともに、外国語教育の小・中学校間の円滑な接続を目指し、研修・研究を工夫して進めていきたい。</p>
--------	--

【施策に関する指標等】				
高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
	2015 年度	2017 年度	2017 年度	2021 年度
英検 3 級以上を取得している中学 3 年生の割合（相当の英語力を有する生徒を含む）	48%	53%	50%	54%
ALT・JTE の配置				
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
ALT(外国語指導助手)	10 人	10 人	10 人	
JTE(日本人英語講師)	5 人	5 人	5 人	
小学校への英語専科教員の配置				
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
—	—	3 名 5 校		

評価
A (前年度 A)

外国人児童生徒教育支援事業	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	5,062千円(前年度5,155千円)
内容	外国人児童生徒の日本語指導や生活習慣等に関する指導体制の充実を図り、円滑な学校生活を送れるよう支援する。
取組状況	外国人児童生徒教育指導講師 11名を、日本語指導が必要な外国人児童生徒の在籍する学校に配置し、日本語指導、学習指導の充実、保護者への対応に努めている。隔週土曜日に日本語指導・母語保持教室を開催し、外国人児童生徒への指導の充実を図っている。
成果と課題	外国人児童生徒の日本語の習熟、学力の向上と、保護者への対応に大きな効果をあげた。支援を必要とする児童生徒は多様化しており、他の補助事業の活用を含め、引き続き事業を継続していく必要がある。
今後の方向性	外国人児童生徒教育については、外国人相談員の配置により、児童生徒の日本語の習熟や学力の向上等に大きな成果を上げている。外国人児童生徒への支援は、日本人児童生徒が安心して楽しく学校生活を送り、多文化共生の意識をはぐくむうえでも大切であり、本事業の一層の充実を図る必要がある。

【施策に関する指標等】				
外国語に堪能な教育支援講師の配置				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
講師人数	ポルトガル語	8人	6人	9人
	中国語他	1人	1人	2人

評価
A (前年度A)

基本方針 1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

重点施策(6) 特別支援教育の推進

- ・ コーディネーターが中心となって特別支援のための校内委員会を機能させるとともに児童生徒の実態を把握し、一人ひとりのニーズに応じた指導に努める。
- ・ 特別支援学校や専門機関との情報交換、校内外の研修会等を通して、教師の専門性を高める。
- ・ きずな子ども発達支援センターの「発達支援室」を中心に、子どもに関係する機関や団体が連携し、情報を共有することで、子どもの望ましい発達支援に努める。

特別支援教育推進事業

担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	11,972 千円 (前年度 10,218 千円)
内容	小・中学校にスタディ・メイト(特別支援教育支援員)を配置し、様々な障害のある児童生徒に対する学校生活上の介助や学習活動上の支援などを行う。
取組状況	スタディ・メイトの活動は、1日4時間程度とし、毎日が無理な場合は、特定の曜日を指定して行った。平成29年度は、54名のスタディ・メイトを34校(小学校26、中学校8)に配置した。対象児童生徒は149名で、各学校の実態に応じて配置した。
成果と課題	個に応じた指導の充実が図られ、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われるようになるなど、個々の学習意欲の向上、確かな学力の定着に成果を上げている。近年、小学校だけではなく、中学校でもスタディ・メイトの配置を要望する学校が増えており、今後、増配置していく必要がある。
今後の方向性	スタディ・メイトについては、前年度末に次年度の要望を確認し、児童生徒の実態に応じた配置に努める。 また、年度途中の学校の状況の変化に伴う配置要望については、児童生徒や学校の状況を確認し、追加配置を行うなど、柔軟な対応に努め、当該児童生徒への支援を行う。

【施策に関する指標等】

スタディ・メイトの配置

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
対象校	小学校	24校	26校	26校
	中学校	5校	6校	8校
配置延べ人数		47人	49人	54人

評価

B
(前年度B)

心身障害児交流活動等推進事業	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	100千円(前年度100千円)
内容	障害のある児童生徒が、学校行事や地域行事などにおいて、市内小中学校の児童生徒や地域の方々と交流活動を行い、相互理解を深めるとともに、共に生きようとする心や態度を育む。
取組状況	こまどり支援学校において、地域交流推進委員会を組織し、成美小学校、志貴野中学校、南星中学校との交流を行っている。双方の運動会、学習発表会での交流に加え、生徒の企画によるレクリエーションなど、創意を生かした活動を行っている。また、「こまどりカレンダー」を作成し、地域や関係機関に配布した。年度末には、まとめを作成した。
成果と課題	交流活動を通して、校内の通常の教育活動では得られない経験をさせることができ、児童生徒の社会性を養うことができた。しかし、交流対象が固定化してきているので、児童生徒の多様なニーズにあった交流先を検討することが必要である。
今後の方向性	こまどり支援学校の児童生徒の実態や生活を考慮し、無理のない交流を計画的、継続的に行う。 これまで継続的に交流を進めている市内3小中学校との交流及び共同学習、学校の近隣自治会の住民との地域交流、さらに、児童生徒の居住する地域にある小・中学校の児童生徒との居住地交流を、保護者の希望も聞きながら推進し、相互理解と社会性の育成に努める。 ※30年度より事業費減 70千円

【施策に関する指標等】

居住地校交流実施数(のべ人数)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学部	14人	12人	17人
中学部	2人	1人	4人

評価
B (前年度B)

基本方針 1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

重点施策(7) 教育効果を高める教育環境の整備

- ・ 安全で快適に学べる教育環境を確保するため、学校施設・設備の改修に取り組むとともに、更新時期を迎える施設の老朽化対策を計画的に進める。
- ・ 「高岡市立学校規模適正化の基本方針」に基づき、良好な教育環境を維持するための最小規模に満たない学校の規模適正化を図るため、計画的に高岡市立学校の統合に取り組む。

学校施設等の改修・整備事業																																	
担当課等	教育総務課																																
事業費(決算額)	学校施設改修事業費 33,844 千円 (前年度 217,085 千円) 改築事業費 1,675,230 千円 (前年度 1,240,592 千円) 増築事業費 — (前年度 302,487 千円) 施設営繕費 162,360 千円 (前年度 139,798 千円)																																
内容	校舎や体育館の老朽化対策に取り組むとともに、グラウンド等の改修や教育設備の充実に努める。																																
取組状況	○改築事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 野村小学校体育館 (H28・29 継続事業) <table border="0"> <tr><td>平成 28 年度</td><td>533,894 千円</td></tr> <tr><td>平成 29 年度</td><td>514,760 千円</td></tr> </table> ・ 志貴野中学校校舎 (H26～29 継続事業) <table border="0"> <tr><td>平成 26 年度</td><td>73,915 千円</td></tr> <tr><td>平成 27 年度</td><td>1,207,105 千円</td></tr> <tr><td>平成 28 年度</td><td>706,698 千円</td></tr> <tr><td>平成 29 年度</td><td>1,160,470 千円</td></tr> </table> ○グラウンド改修事業 五位中学校グラウンド 33,844 千円 ○施設営繕費 (単位：千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>72,375</td> <td>78,911</td> <td>82,905</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>50,261</td> <td>58,461</td> <td>76,834</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>2,211</td> <td>2,426</td> <td>2,621</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>124,847</td> <td>139,798</td> <td>162,360</td> </tr> </tbody> </table>	平成 28 年度	533,894 千円	平成 29 年度	514,760 千円	平成 26 年度	73,915 千円	平成 27 年度	1,207,105 千円	平成 28 年度	706,698 千円	平成 29 年度	1,160,470 千円	年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	小学校	72,375	78,911	82,905	中学校	50,261	58,461	76,834	特別支援学校	2,211	2,426	2,621	合計	124,847	139,798	162,360
平成 28 年度	533,894 千円																																
平成 29 年度	514,760 千円																																
平成 26 年度	73,915 千円																																
平成 27 年度	1,207,105 千円																																
平成 28 年度	706,698 千円																																
平成 29 年度	1,160,470 千円																																
年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度																														
小学校	72,375	78,911	82,905																														
中学校	50,261	58,461	76,834																														
特別支援学校	2,211	2,426	2,621																														
合計	124,847	139,798	162,360																														
成果と課題	野村小学校体育館、志貴野中学校校舎の改築工事が完了したことにより、学校施設の耐震化率は 100%となった。一方、老朽化した学校施設の改修や諸設備の更新に加え、グラウンド整備やトイレの洋式化など依然として多くの課題を抱えている。また、普通教室へのエアコンの導入を求める声が多くなっている。																																

今後の方向性	国や県の財政支援の活用を図りながら、学校施設の安全確保と教育環境の向上に取り組んでいく。普通教室へのエアコン設置については、教室内の温度等の測定調査を行うなど課題等について整理を進めるとともに、将来の望ましい教育環境について幅広い観点から検討していく。
--------	--

【施策に関する指標等】 学校施設耐震化率				評価
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	B
	99.6%	99.6%	100.0%	(前年度 A)

学校規模適正化事業	
担当課等	教育総務課
事業費(決算額)	215 千円 (前年度 2,789 千円)
内容	未来を担う子どもたちのための教育充実のため、望ましい学校規模や適切な学校配置にしっかりと配慮しながら、学校の統合に取り組む。
取組状況	<p>○五位中学校区統合小学校 平成 27 年 12 月に策定した高岡市立学校規模適正化の基本計画・地区選定計画【第 1 次】に基づき、五位中学校区内の統合小学校（東五位小、千鳥丘小、石堤小）の基本計画の作成を進める。</p> <p>○これからの高岡の教育を考える懇談会 高岡市における今後の教育充実に向けた課題等について検討。 平成 29 年 7 月 25 日～10 月 17 日（全 3 回）</p> <p>○未来を担う子どもたちを育むこれからの高岡市の教育充実に係る意見交換会 中学校区を基本に、P T A 役員及び教職員と教育委員会とでワークショップ形式による意見交換会を実施。 平成 30 年 1 月 9 日～2 月 8 日（全 13 回、416 人参加）</p>
成果と課題	<p>五位中学校区統合協議会幹事会を開催し、統合に係る諸課題を協議するとともに、基本計画の作成を進めた。</p> <p>「これからの高岡の教育を考える懇談会」において、教育充実の方向の一つとして、「小中一貫教育の推進」が提案された。また、「未来を担う子どもたちを育むこれからの高岡市の教育充実に係る意見交換会」において、学校規模・学校配置に関する意見が多く出された（2,169 件中 157 件）。これらの懇談会等が出された意見について、総合教育会議に報告し、今後の教育充実に向けた将来構想に活かすこととした。</p>

今後の方向性	今後の教育充実に向けた将来構想を検討するため、平成 30 年度に「高岡市教育将来構想検討会議」を設置し、小中連携、小中一貫教育の導入、望ましい学校の規模や配置などの諸課題について検討を行うことにしている。この将来構想の取りまとめのなかで、平成 30 年内に、学校再編の全体像を示していく。
--------	--

評価
B (前年度 B)

基本方針 2 社会全体で人を育む絆の創造

重点施策(1) 学校、家庭、地域の連携による児童生徒の健全育成

- ・ 学校と家庭、地域社会との連携を密にし、地域ぐるみの児童生徒の健全育成を推進する。
- ・ 学校評議員制の活用と学校評価結果やアクションプランの成果の公開により、家庭や地域に開かれた学校づくりに努める。
- ・ 「高岡市いじめ防止基本方針」に基づき、学校、家庭、地域、関係機関等が連携し、いじめの防止等の対策に取り組む。
- ・ 「高岡市通学路交通安全プログラム」に基づき、通学路の交通安全を確保するとともに、家庭・地域や学校安全パトロール隊等と連携を図り、児童生徒の登下校時の安全確保に努める。

小学校地域学習サポート事業

担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	468 千円 (前年度 468 千円)
内容	地域の幅広い経験や優れた知識・技能を持つ人を講師に迎え「地域学習」の充実を図る。
取組状況	小学校 26 校に小学校地域学習サポート事業報償費を交付している。伝統芸能・伝統産業の学習や勤労生産学習、スポーツ等の講師として地域人材を活用している。
成果と課題	学習活動の充実とともに、学校と地域との連携協力体制づくりを推進できた。
今後の方向性	引き続き、地域の優れた知識・技能をもつ人材を外部講師として学校に招聘し、専門的な技術を身につけながら、地域社会に対する誇りと愛情を持てるように「地域学習」の充実を図っていく。

【施策に関する指標等】

地域人材の活用※ (単位：%)

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小学校	高岡市	81.5	88.5	80.8
	富山県	75.8	83.2	75.8
	全国	76.3	82.4	84.2
中学校	高岡市	58.3	50.0	41.7
	富山県	63.5	66.7	69.4
	全国	58.8	65.2	68.9

※全国学力・学習状況調査において、「地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか」との質問に対し、「よく」「どちらかといえば」行っていると答えた学校の割合

評価

B
(前年度 B)

学校評価・学校評議員	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	－ 千円 (前年度 ー千円)
内容	学校評議員制の活用と学校評価結果やアクションプラン (行動計画) の成果の公開により、家庭や地域に開かれた学校づくりに努める。
取組状況	市内全小・中・特別支援学校において学校評議員制度を取り入れるとともに各学校で学校評価を実施している。また、そのデータ分析結果を、アクションプランの行動目標に反映し、学校運営の改善に努めている。
成果と課題	<p>学校評価結果や学校評議員の評価を学校運営に反映し、アクションプランの評価項目の選定や数値目標の設定に活かし、学校運営の活性化に努めている。</p> <p>今後も、学校運営の改善につながる評価とするために、評価項目の検討及び指導に努めたい。また、運営に地域住民や保護者が参加するコミュニティースクールについても研究していく必要がある。</p>
今後の方向性	<p>各学校では、前年度の教育活動の成果と課題を踏まえ、アクションプランの行動目標と数値目標を設定し、日々の教育実践に取り組む。</p> <p>保護者や児童生徒、教職員による学校評価及び、学校評議員による評価を実施し、その結果を保護者や地域に発信するとともに、学校の取組に関する評価と改善を行い、P D C Aサイクルによる学校運営に努める。</p>

【施策に関する指標等】				
地域の学校活動への参加※ (単位：%)				
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小学校	高岡市	100.0	100.0	100.0
	富山県	98.4	98.5	99.5
	全国	97.1	97.7	98.6
中学校	高岡市	100.0	100.0	100.0
	富山県	98.8	98.8	98.8
	全国	95.1	95.6	97.5

※全国学力・学習状況調査において、「P T Aや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれるか」との質問に対し、「よく」「どちらかといえば」してくれると答えた学校の割合

評価
B (前年度B)

学校安全対策	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	－ 千円 (前年度 － 千円)
内容	児童生徒が安心して登下校したり、学校生活を送ったりすることができるように、学校・P T A・地域・行政が一体となり、市民との協働による新たな学校・地域安全防犯体制を構築する。
取組状況	<p>「高岡市通学路交通安全プログラム」に基づき、各小学校区から抽出された危険箇所について、関係機関による合同点検や対策の実施・検証等を進め、通学路の安全確保に努めている。</p> <p>通学路や地域における危険箇所等を明示した「地域安全マップ」を作成するとともに、定期的に立哨指導を行う。</p> <p>不審者情報等の共有、迅速な配信ができるよう、教育・安全情報のリアルタイムシステムの整備と活用を図る。</p> <p>各学校の危機管理マニュアルを常に見直し、実効性のあるものに更新する。</p>
成果と課題	<p>平成 29 年度は、27 小学校区から 74 箇所の危険箇所が抽出され、順次対策を進めている。</p> <p>学校安全パトロール隊や子ども 110 番の家、警察等との連携に努めている。小学校においては、スクールガードリーダーの積極的な活用を促してきた。</p> <p>各学校では、危機管理マニュアルや情報伝達経路、避難経路等について実効性のあるものとなるよう常に見直しを行っている。</p>
今後の方向性	<p>学校安全対策は、学校安全パトロール隊や子ども 110 番の家の設置、警察等との連携体制を整備してきている。各学校においては、危機管理マニュアルが実効性のあるものとなるよう常に見直しを図るとともに、避難訓練等を行い、安全指導に努めている。また、平成 28 年度に「高岡市通学路交通安全プログラム」を策定した。今後も教育、道路、警察等の機関が連携し、継続的に通学路の安全性向上を図っていく予定である。</p>

【施策に関する指標等】

高岡市通学路交通安全プログラムに基づく安全対策実施状況

	平成 28 年度	平成 29 年度
抽出危険箇所数	54 箇所	59 箇所
対策済	33 箇所	5 箇所
事業中	9 箇所	21 箇所
検討中	12 箇所	33 箇所

評価
A (前年度 A)

基本方針 2 社会全体で人を育む絆の創造

重点施策(2) 家庭や地域の教育力の向上

- ・ 優れた人間性と豊富な専門的知識や指導技術をもつ指導者の養成に努める。
- ・ 学校・家庭・地域社会が連携し、青少年に文化活動、スポーツ活動、その他いろいろな体験活動の場と機会を提供することで、育成活動の活発化を図る。
- ・ 優れた伝統文化にふれる機会の提供に努める。
- ・ 地域における有害環境の浄化や、迷惑行為の防止などの取り組みを支援するとともに、児童生徒の問題行動等に対応するための教育相談体制の充実に努め、ジュニア育成のための環境づくりを推進する。
- ・ 子育て中の親に対する様々な学習支援を中心とした家庭教育をはじめ青少年教育、成人教育の推進に努める。
- ・ 家庭・地域における子どもの読書活動を推進するため、図書館、子どもの読書活動にかかわるボランティア団体等が協力し、行政と市民の協働による子どもの読書活動の推進に努める。
- ・ 地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力により、体系的・継続的なプログラムを実施し、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する土曜学習を推進する。

家庭教育支援事業															
担当課等	生涯学習・文化財課														
事業費(決算額)	561 千円 (前年度 580 千円)														
内容	母親のための情報交換会を実施し若い親を支援するとともに、アドバイスができる家庭教育推進サポーターを養成・委嘱・配置し、情報交換会をひらく。														
取組状況	○子育て支援事業 ・家庭教育推進サポーター養成講座 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全 6 回 参加者 27 人</td> <td>全 4 回 参加者 30 人</td> <td>全 4 回 参加者 27 人</td> </tr> </tbody> </table> ・子育て情報交換会 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会 場：9 公民館 回 数：1 公民館 12 回 参加者：述べ 1,296 人</td> <td>会 場：8 公民館 回 数：1 公民館 10 回 参加者：述べ 746 人</td> <td>会場：7 公民館 回数：1 公民館 10 回 参加者：延べ 851 人</td> </tr> </tbody> </table>			平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	全 6 回 参加者 27 人	全 4 回 参加者 30 人	全 4 回 参加者 27 人	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	会 場：9 公民館 回 数：1 公民館 12 回 参加者：述べ 1,296 人	会 場：8 公民館 回 数：1 公民館 10 回 参加者：述べ 746 人	会場：7 公民館 回数：1 公民館 10 回 参加者：延べ 851 人
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度													
全 6 回 参加者 27 人	全 4 回 参加者 30 人	全 4 回 参加者 27 人													
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度													
会 場：9 公民館 回 数：1 公民館 12 回 参加者：述べ 1,296 人	会 場：8 公民館 回 数：1 公民館 10 回 参加者：述べ 746 人	会場：7 公民館 回数：1 公民館 10 回 参加者：延べ 851 人													
成果と課題	開催会場を 8 会場から 7 会場に縮小したが、参加者数は昨年度に比べて 105 人増加した。しかし、少人数で開催している会場もあることから、開催会場数の見直しや、情報交換会の PR が必要である。														
今後の方向性	利用者からは、身近な公民館で、気軽に子育ての悩みを話せる唯一の場として、大変好評である。今後も、家庭教育推進サポーターを養成し、														

	より多くの子育て中の保護者に向けて、情報交換の場を提供していく。
--	----------------------------------

評価
B
(前年度B)

子ども元気活動支援推進事業																								
担当課等	生涯学習・文化財課																							
事業費(決算額)	4,633千円(前年度4,748千円)																							
内容	学校週5日制の実施に伴い、子どもたちに不足がちな奉仕・体験活動の機会と場を充実させ、放課後子ども教室、土曜学習などを実施する。																							
取組状況	<p>[放課後子ども教室・土曜学習] 小学生対象</p> <p>市内の小学校・公民館などにおいて、地域の大人の協力のもと、平日放課後や休日に体験活動・交流活動・学習活動を行った。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放課後子ども教室</td> <td>実施校区数</td> <td>25校</td> <td>23校</td> <td>24校</td> </tr> <tr> <td>土曜学習</td> <td>実施校区数</td> <td>8校</td> <td>13校</td> <td>14校</td> </tr> </tbody> </table> <p>[中学校土曜学習]</p> <p>中学生に土曜日の学習の場を提供し、教員OBと地元大学生が個別指導することにより、学習環境を整え、学習意欲の向上を図った。</p> <p>生涯学習センターにおいて年10回実施。定員1年生・2年生各30名</p> <p>[ジュニア育成リーダー養成講座]</p> <p>高校生、大学生等を対象に各種講座を開催し、ジュニアリーダーの養成に努めた。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講者数</td> <td>31人</td> <td>27人</td> <td>39人</td> </tr> </tbody> </table>			平成27年度	平成28年度	平成29年度	放課後子ども教室	実施校区数	25校	23校	24校	土曜学習	実施校区数	8校	13校	14校		平成27年度	平成28年度	平成29年度	受講者数	31人	27人	39人
		平成27年度	平成28年度	平成29年度																				
放課後子ども教室	実施校区数	25校	23校	24校																				
土曜学習	実施校区数	8校	13校	14校																				
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																					
受講者数	31人	27人	39人																					
成果と課題	<p>放課後子ども教室については、地域住民と児童との交流の場となり、子どもたちを地域で育てようという意識が定着してきた。</p> <p>土曜学習については、平成29年度は新たに1小学校区を加えた14小学校区で実施しており、土曜日の教育環境の拡充が図られた。</p> <p>中学生を対象とした土曜学習については、1年生・2年生各30名の募集定員に対し、応募が72名あり(全員参加可とした)、このような学習環境に対する需要は大きいものと捉えている。</p>																							
今後の方向性	事業を通して、普段学校では体験できない多様な地域活動が展開され、地域との連携が図られた。引き続き、参加者や保護者の意見を取り入れるなど、更なる充実を図っていく。																							

	中学生土曜学習は、毎年参加生徒から好評を得ていることから、次年度以降も優れた指導員の確保に努め、内容の充実を図る。
--	---

【施策に関する指標等】				
高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
	2015年度	2017年度	2017年度	2021年度
土曜学習の実施学校数	8校	14校	14校	18校

評価
B (前年度B)

基本方針 2 社会全体で人を育む絆の創造

重点施策(3) ふれあいと語らいの生まれる生涯学習の機会と場の提供

- ・ 地域住民の学習意欲に応えるため、公民館を地域における生涯学習の中心施設として位置づけ、自発的な学習活動の推進や地域の人材活用を促進する。
- ・ 地域の特色を生かした世代間交流事業などを奨励し、住民同士がふれあい、語らうことのできる地域づくりを推進する。
- ・ 二上まなび交流館を青少年の健全育成や生涯学習を推進する場として有効活用を図る。
- ・ 五位山交流館について、地域の有する資源を活かした都市部との広域交流の促進や地域の生涯学習活動の支援に努める。

公民館活動推進事業																																															
担当課等	生涯学習・文化財課																																														
事業費(決算額)	10,857千円(前年度10,859千円)																																														
内容	地域の生涯学習活動の拠点である公民館活動を推進する。公民館での日常の活動成果を発表する場として、また、市民に公民館活動への理解・啓発を深めるため、毎年1回、多くの参加者、スタッフが協力して公民館フェスタを開催している。																																														
取組状況	<p>○公民館利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学級・講座など</td> <td>222,878人</td> <td>219,824人</td> <td>229,799人</td> </tr> <tr> <td>公民館自主事業</td> <td>31,449人</td> <td>33,599人</td> <td>31,776人</td> </tr> <tr> <td> 団体利用</td> <td>256,990人</td> <td>262,063人</td> <td>256,337人</td> </tr> <tr> <td> 個人利用</td> <td>25,982人</td> <td>26,426人</td> <td>27,398人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>537,299人</td> <td>541,912人</td> <td>545,310人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○公民館フェスタ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホール発表参加数</td> <td>21団体・250人</td> <td>20団体・271人</td> <td>20団体・277人</td> </tr> <tr> <td>展示作品数</td> <td>648点</td> <td>616点</td> <td>618点</td> </tr> <tr> <td>PRコーナー</td> <td>33館</td> <td>36館</td> <td>36館</td> </tr> <tr> <td>入場者数</td> <td>5,610人</td> <td>5,428人</td> <td>4,552人</td> </tr> </tbody> </table>				平成27年度	平成28年度	平成29年度	学級・講座など	222,878人	219,824人	229,799人	公民館自主事業	31,449人	33,599人	31,776人	団体利用	256,990人	262,063人	256,337人	個人利用	25,982人	26,426人	27,398人	合計	537,299人	541,912人	545,310人		平成27年度	平成28年度	平成29年度	ホール発表参加数	21団体・250人	20団体・271人	20団体・277人	展示作品数	648点	616点	618点	PRコーナー	33館	36館	36館	入場者数	5,610人	5,428人	4,552人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																												
学級・講座など	222,878人	219,824人	229,799人																																												
公民館自主事業	31,449人	33,599人	31,776人																																												
団体利用	256,990人	262,063人	256,337人																																												
個人利用	25,982人	26,426人	27,398人																																												
合計	537,299人	541,912人	545,310人																																												
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																												
ホール発表参加数	21団体・250人	20団体・271人	20団体・277人																																												
展示作品数	648点	616点	618点																																												
PRコーナー	33館	36館	36館																																												
入場者数	5,610人	5,428人	4,552人																																												
成果と課題	378 市立・自治会公民館の連携により実施する公民館フェスタは、天候が悪く、前年に比べ来場者は減少したが、展示作品が増え、PRコーナーにも全館参加し、内容の充実が図られた。研究大会では、ハーモニカサークルがオープニングを飾り、体験教室では水引で花の置物やブローチづくりを行った。公民館における日頃の生涯学習活動を発表することによって、市民の理解が深まった。																																														
今後の方向性	今後も公民館フェスタ開催を通じて、より多くの市民に地域の生涯学																																														

	習活動の拠点である公民館活動への参加を促進するとともに、公民館を中心とした住民主体による地域づくりを一層推進する必要がある。
--	--

評価
B (前年度A)

公民館施設整備事業																									
担当課等	生涯学習・文化財課																								
事業費(決算額)	26,798千円(前年度16,237千円)																								
内容	地域の生涯学習活動の拠点である公民館の整備																								
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 市立公民館建物修繕費 6,996千円(前年度7,000千円) 市立下関公民館トイレ洋式化修繕工事 市立牧野公民館トイレ洋式化修繕工事 市立東五位公民館ホール床改修工事 など 自治会公民館建設等補助 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新築</td> <td>1件</td> <td></td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>購入</td> <td></td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>改築</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>修繕</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>4,281千円</td> <td>9,237千円</td> <td>19,802千円</td> </tr> </tbody> </table>		平成27年度	平成28年度	平成29年度	新築	1件		2件	購入		1件	1件	改築	1件	2件	2件	修繕	2件	2件	2件	事業費	4,281千円	9,237千円	19,802千円
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																						
新築	1件		2件																						
購入		1件	1件																						
改築	1件	2件	2件																						
修繕	2件	2件	2件																						
事業費	4,281千円	9,237千円	19,802千円																						
成果と課題	市立公民館の修繕等について、限られた予算の中で優先度の高いものから対応した。また、自治会公民館の購入・改築・修繕に対する建設等補助を通して生涯学習活動の拠点である公民館の整備を行った。																								
今後の方向性	今後も市立公民館の維持管理に計画的に取り組むとともに、地域の公民館活動への期待に応えられるよう、その基盤である自治会公民館の整備について支援してまいりたい。																								

評価
A (前年度A)

二上まなび交流館企画事業				
担当課等	生涯学習・文化財課			
事業費(決算額)	3,474千円(前年度3,343千円)			
内容	自然体験プログラムや野外料理を通して二上山の自然に親しむとともに、子ども同士の共同生活を通して、相互交流と友情を深める。また、まなびっこクラブやアイデア工作展等の事業を推進する。			
取組状況		平成27年度	平成28年度	平成29年度
	春の二上山を楽しもう	43人	23人	20人
	夏合宿異年齢間生活体験事業	48人	45人	46人
	秋の二上山を楽しもう	31人	18人	26人
	その他7事業	372人	396人	343人
	アイデア工作展(応募数)	217点	236点	200点
	未来の科学の夢絵画展(応募数)	108点	107点	131点
	まなびっこクラブ(クラブ員数)	119人	91人	85人
	まなびっこフェスティバル	750人	650人	500人
	年間利用者数	23,584人	22,930人	18,670人
	成果と課題	参加した子どもたちが自然に対する興味や関心を高めるとともに、団体活動をすることにより、友情や協調性を深めることができた。まなびっこクラブやアイデア工作展等の事業も着実に進めることができた。		
今後の方向性	主催事業の充実や展示内容の工夫を図りながら、利用者の利便性の向上と利用促進を図ってまいりたい。			

評価
B
(前年度B)

五位山交流館企画事業				
担当課等	福岡教育行政センター			
事業費(決算額)	3,398千円(前年度 3,398千円)			
内容	五位山地域の有する資源を活かし、地域住民と都市部との交流を増やし、その生涯学習活動を支援する。			
取組状況		平成27年度	平成28年度	平成29年度
	流しソーメンとホテル観察会【親子参加】	50家族 158人	20家族 100人	21家族 95人
	ジャガイモ掘り体験【親子参加】	13家族 37人	14家族 45人	10家族 45人
	梅干しづくり教室【2回】	20人	17人	【1回】 10人
	大釜山へ登ろう	—	21人	20人
	年間利用者数	2,180人	2,779人	2,842人
成果と課題	中山間地域という土地条件を生かし、親子参加型の体験行事を多く取り入れ、自然に対する関心を深めてもらうように努めた。また、五位山の魅力を伝えるため「大釜山へ登ろう」を実施し、都市部からの来訪促進を図った。			
今後の方向性	五位山交流館は平成27年度の開館当初から指定管理制度を導入し、運営されている。開館から3年を経過し、自然体験事業である流しソーめんやジャガイモ掘り体験等の取り組みが認知されてきたことから、利用者数が毎年増加している。今後も指定管理者が自主的な企画運営を行い、新規事業の拡充等を図ることで利用者の増加を目指すとともに、地域住民の生涯学習活動や、地域資源を活かした地域住民と都市部との交流拠点の役割を担う施設となるよう支援してまいりたい。			

評価
B
(前年度B)

基本方針3 うるおいと活気に満ちた学習機会の創造

重点施策(1) 地域に根ざした学習活動の育成

- ・ 市民のふるさとの自然・歴史・文化を学ぶ意欲を高めるとともに、各種の社会教育団体等の活動を支援し活性化を図る。
- ・ 高岡にゆかりのある文学、高岡が舞台となっている物語、童話、民話、昔話や言い伝えなどの活用によって、歴史・文化の継承・発展に努める。
- ・ 読書活動の重要性について、理解が深まるとともに関心が高まるように、啓発広報活動の充実に努める。

図書館資料の充実

担当課等	中央図書館等																																																												
事業費(決算額)	28,500千円(前年度28,499千円)																																																												
内容	中央図書館を含む5館及び移動図書館の蔵書として、一般図書、児童用図書、参考図書などを計画に基づき購入する。																																																												
取組状況	<p>平成29年度は、一般書9,537冊、郷土資料80冊、児童書3,520冊、雑誌3,074冊、視聴覚資料75点を新しく購入したほか、古書を含む2,364冊の寄贈もいただいた。蔵書冊数は前年度から7,422冊増加し、市民1人当たりの蔵書冊数も前年度から0.07冊増えている。</p> <p>◎図書購入費</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書購入費(決算額)</td> <td>28,497千円</td> <td>28,499千円</td> <td>28,500千円</td> </tr> <tr> <td>市民一人当たり</td> <td>163円</td> <td>164円</td> <td>165円</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎寄贈数 ※視聴覚資料・雑誌を含む</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄贈数</td> <td>3,547冊</td> <td>3,009冊</td> <td>2,364冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎蔵書数(年度末) ※視聴覚資料・雑誌を含む</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>蔵書数</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央</td> <td>372,400冊</td> <td>379,779冊</td> <td>386,155冊</td> </tr> <tr> <td>伏木</td> <td>60,486冊</td> <td>60,071冊</td> <td>61,029冊</td> </tr> <tr> <td>戸出</td> <td>60,744冊</td> <td>60,196冊</td> <td>59,292冊</td> </tr> <tr> <td>中田</td> <td>37,633冊</td> <td>37,414冊</td> <td>37,419冊</td> </tr> <tr> <td>福岡</td> <td>83,884冊</td> <td>85,871冊</td> <td>86,858冊</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>615,147冊</td> <td>623,331冊</td> <td>630,753冊</td> </tr> <tr> <td>市民一人当たり</td> <td>3.53冊</td> <td>3.59冊</td> <td>3.66冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎雑誌スポンサー及び提供雑誌数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18事業者 25誌</td> <td>24事業者 32誌</td> <td>23事業者 31誌</td> </tr> </tbody> </table>				平成27年度	平成28年度	平成29年度	図書購入費(決算額)	28,497千円	28,499千円	28,500千円	市民一人当たり	163円	164円	165円		平成27年度	平成28年度	平成29年度	寄贈数	3,547冊	3,009冊	2,364冊	蔵書数	平成27年度	平成28年度	平成29年度	中央	372,400冊	379,779冊	386,155冊	伏木	60,486冊	60,071冊	61,029冊	戸出	60,744冊	60,196冊	59,292冊	中田	37,633冊	37,414冊	37,419冊	福岡	83,884冊	85,871冊	86,858冊	合計	615,147冊	623,331冊	630,753冊	市民一人当たり	3.53冊	3.59冊	3.66冊	平成27年度	平成28年度	平成29年度	18事業者 25誌	24事業者 32誌	23事業者 31誌
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																										
図書購入費(決算額)	28,497千円	28,499千円	28,500千円																																																										
市民一人当たり	163円	164円	165円																																																										
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																										
寄贈数	3,547冊	3,009冊	2,364冊																																																										
蔵書数	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																										
中央	372,400冊	379,779冊	386,155冊																																																										
伏木	60,486冊	60,071冊	61,029冊																																																										
戸出	60,744冊	60,196冊	59,292冊																																																										
中田	37,633冊	37,414冊	37,419冊																																																										
福岡	83,884冊	85,871冊	86,858冊																																																										
合計	615,147冊	623,331冊	630,753冊																																																										
市民一人当たり	3.53冊	3.59冊	3.66冊																																																										
平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																											
18事業者 25誌	24事業者 32誌	23事業者 31誌																																																											

成果と課題	<p>図書購入費の確保のため、中央図書館において雑誌スポンサー制度を実施し、多くの事業所に協力をいただいている。また、市民の皆様からの寄贈本の有効利用、郷土資料の収集等により、各分野の書籍の充実に努め、蔵書数は増加している。一方では、ネット予約の増に伴う来館回数の減少や、電子書籍の普及などにより貸出数は年々減少となっている。来館回数を増やす工夫や利用者のニーズを見いだすことが課題である。</p>
今後の方向性	<p>生涯学習や地域の課題解決のための総合的な情報提供サービス施設を目指した「調査・相談機能」のさらなる充実や、「読み聞かせ会」等のイベントへの参加啓発にも一層努めていく。また、利用者ニーズやより良い蔵書構成に配慮した選書に努める。</p>

評価
<p style="text-align: center;">B (前年度C)</p>

基本方針3 うるおいと活気に満ちた学習機会の創造

重点施策(2) 生涯学習体制の充実

- ・ あらゆる世代の学習ニーズを的確に把握し、学習の機会と場を提供するとともに、指導者の養成、社会教育団体及びボランティアグループの育成、学習相談体制の充実に努める。
- ・ 生涯学習センター、公民館など各々の施設でインターネットなどを活用した広域的な学習情報の収集・提供に努める。
- ・ 基本的人権を尊重する市民主体の地域活動や学習活動を促進するため、生涯学習推進協議会を中心とした地域に根ざした生涯学習活動の活性化を支援する。
- ・ 生涯学習によるまちづくりを推進するため、生涯学習センターやふくおか総合文化センターなどを拠点として学習情報を収集・提供するとともに、公民館をはじめ地域の生涯学習関連施設との連携を強化し、市民の交流と学習活動の効果的な支援に努める。

生涯学習講座の充実				
担当課等	生涯学習・文化財課			
事業費(決算額)	2,284千円(前年度2,352千円)			
内容	生涯学習センターを市民の生涯学習活動の拠点施設として、各公民館、県民カレッジなどと連携を図りながら、各種講座を実施し学習機会の提供を充実させる。			
取組状況	○生涯センター講座の実施			
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
実技講座	講座数	7講座	8講座	7講座
	受講者数	81人	118人	77人
一般教養講座	講座数	2講座	2講座	2講座
	受講者数	93人	74人	88人
高岡学講座	講座数	6講座	6講座	7講座
	受講者数	197人	225人	255人
大学連携講座	講座数	3講座	3講座	3講座
	受講者数	90人	77人	60人
プレミアム講座	講座数	2講座	2講座	2講座
	受講者数	11人	16人	15人
合計	講座数	20講座	21講座	21講座
	受講者数	472人	510人	495人
	○高岡学遊塾			
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
実技講座	講座数	40講座	47講座	52講座
	受講者数	477人	493人	606人
	○生涯学習センター利用状況			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
利用者数	254,131人	271,582人	238,017人	
(内)ホール、諸室等	93,159人	106,294人	84,480人	

成果と課題	<p>生涯学習センター講座については、市民の学習意欲を高める講座として、「はじめての家持」や「前田家のまちづくりと町民文化」など、地域の歴史や文化を学ぶ「高岡学講座」を充実させたところ、受講者が増加した。次代を担う子どもたちに地域の伝統文化（能楽・雅楽）を学ぶプレミアム講座を実施することで、子どもたちの豊かな感受性を育むとともに、地域文化の継承と発展に努めた。</p> <p>利用人数は、イベントの規模や回数により、大幅に増減する。利用促進のため、少人数での利用を可能にするなど、多様なニーズに対応するよう努めている。</p>
今後の方向性	<p>国や県、大学、民間等と連携しながら生涯学習の広域的なネットワークを構築し、生涯学習の情報収集・提供に努めるとともに、幅広い層を対象にした学習機会の提供に努めている。</p> <p>今後も、さらに市民の学習ニーズを的確に把握し、高岡学を中心とした学習機会を提供していく。</p>

【施策に関する指標等】

高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
	2015年度	2017年度	2017年度	2021年度
生涯学習センター の利用者数	254,131人	238,017人	256,000人	260,000人

評価
<p style="text-align: center;">B (前年度C)</p>

ふくおか教養講座開催事業													
担当課等	福岡教育行政センター												
事業費(決算額)	208千円(前年度 213千円)												
内容	ふくおか総合文化センター(Uホール)において、地域の実情や課題、要望に応じた講座を開催し、地域に住む人々がいつでも気軽に学び楽しむことができる講座を開催する。												
取組状況	<p>○講座実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーブを楽しむ【5回】 参加者：47人 ・庭園管理【5回】 参加者：83人 ・ふくおかふれあいぶらり散歩【5回】 参加者：63人 ・コーラスを楽しもう【6回】 参加者：148人 ・もっと楽しむフォトレッスン【5回】 参加者：33人 ・自由に描く楽しい絵画【5回】 参加者：35人 ・はじめてのパソコン【24回】 参加者：193人 ・お楽しみ講座(木版画を楽しもう・山野草寄せ植え入門・楽しいパンづくり・宮島そば道場そば打ち教室)【7回】 参加者：61人 ・四季菜ふるさと料理【5回】 参加者：50人 ・ふくおかカレッジ【2回】 参加者：50人 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・囲碁入門【5回】 参加者：52人 ・庭園管理【5回】 参加者：56人 ・ふくおかカレッジはじめての越中万葉【5回】 参加者：149人 ・コーラスを楽しもう【6回】 参加者：165人 ・簡単洋裁【5回】 参加者：55人 ・自由に描く楽しい絵画【5回】 参加者：53人 ・はじめてのパソコン【16回】 参加者：120人 ・お楽しみ講座(木版画を楽しもう・四季菜ケーキ作り・宮島そば道場そば打ち教室・75歳からの後期高齢者医療制度とは・初心者のための金融商品を選ぶポイント・使ってみようスマホ体験講座)【9回】 参加者：82人 ・四季菜ふるさと料理【5回】 参加者：44人 ・ふくおかカレッジ【2回】 参加者：56人 </td> </tr> <tr> <td>合計 763人</td> <td>合計 832人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ふくおか総合文化センター(Uホール)利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>114,050人</td> <td>105,732人</td> <td>104,974人</td> </tr> </tbody> </table>	平成28年度	平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブを楽しむ【5回】 参加者：47人 ・庭園管理【5回】 参加者：83人 ・ふくおかふれあいぶらり散歩【5回】 参加者：63人 ・コーラスを楽しもう【6回】 参加者：148人 ・もっと楽しむフォトレッスン【5回】 参加者：33人 ・自由に描く楽しい絵画【5回】 参加者：35人 ・はじめてのパソコン【24回】 参加者：193人 ・お楽しみ講座(木版画を楽しもう・山野草寄せ植え入門・楽しいパンづくり・宮島そば道場そば打ち教室)【7回】 参加者：61人 ・四季菜ふるさと料理【5回】 参加者：50人 ・ふくおかカレッジ【2回】 参加者：50人 	<ul style="list-style-type: none"> ・囲碁入門【5回】 参加者：52人 ・庭園管理【5回】 参加者：56人 ・ふくおかカレッジはじめての越中万葉【5回】 参加者：149人 ・コーラスを楽しもう【6回】 参加者：165人 ・簡単洋裁【5回】 参加者：55人 ・自由に描く楽しい絵画【5回】 参加者：53人 ・はじめてのパソコン【16回】 参加者：120人 ・お楽しみ講座(木版画を楽しもう・四季菜ケーキ作り・宮島そば道場そば打ち教室・75歳からの後期高齢者医療制度とは・初心者のための金融商品を選ぶポイント・使ってみようスマホ体験講座)【9回】 参加者：82人 ・四季菜ふるさと料理【5回】 参加者：44人 ・ふくおかカレッジ【2回】 参加者：56人 	合計 763人	合計 832人	平成27年度	平成28年度	平成29年度	114,050人	105,732人	104,974人
平成28年度	平成29年度												
<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブを楽しむ【5回】 参加者：47人 ・庭園管理【5回】 参加者：83人 ・ふくおかふれあいぶらり散歩【5回】 参加者：63人 ・コーラスを楽しもう【6回】 参加者：148人 ・もっと楽しむフォトレッスン【5回】 参加者：33人 ・自由に描く楽しい絵画【5回】 参加者：35人 ・はじめてのパソコン【24回】 参加者：193人 ・お楽しみ講座(木版画を楽しもう・山野草寄せ植え入門・楽しいパンづくり・宮島そば道場そば打ち教室)【7回】 参加者：61人 ・四季菜ふるさと料理【5回】 参加者：50人 ・ふくおかカレッジ【2回】 参加者：50人 	<ul style="list-style-type: none"> ・囲碁入門【5回】 参加者：52人 ・庭園管理【5回】 参加者：56人 ・ふくおかカレッジはじめての越中万葉【5回】 参加者：149人 ・コーラスを楽しもう【6回】 参加者：165人 ・簡単洋裁【5回】 参加者：55人 ・自由に描く楽しい絵画【5回】 参加者：53人 ・はじめてのパソコン【16回】 参加者：120人 ・お楽しみ講座(木版画を楽しもう・四季菜ケーキ作り・宮島そば道場そば打ち教室・75歳からの後期高齢者医療制度とは・初心者のための金融商品を選ぶポイント・使ってみようスマホ体験講座)【9回】 参加者：82人 ・四季菜ふるさと料理【5回】 参加者：44人 ・ふくおかカレッジ【2回】 参加者：56人 												
合計 763人	合計 832人												
平成27年度	平成28年度	平成29年度											
114,050人	105,732人	104,974人											
成果と課題	福岡の特色を活かした学習体験や、地域の人材活用に配慮した新講座の企画に当たった。受講生は、学級講座で体験したことを契機として、自主的に学びを継続していくケースも見られた。また、学級講座を通して、講師や受講生同士の交流も深まっており、積極的に次回の開設を要望する受講生の姿も見られた。今後は、受講生のニーズや現代の課題等に適合した的確な講師を見出していくことが課題である。												

今後の方向性	<p>ふくおか総合文化センター（Uホール）における「ふくおか教養講座」は、アンケートを基に受講生のニーズを把握するとともに、福岡の特色を生かした体験講座や、現代課題に沿った学習型の講座を実施し、内容の充実を図っている。</p> <p>今後も福岡地域の生涯学習の拠点であるとともに、全市的な生涯学習の場となるよう、社会教育施設と連携しながら市民の文化水準の向上及び生涯学習事業の充実を図っていききたい。</p>
--------	--

評価
<p>B (前年度B)</p>

基本方針3 うるおいと活気に満ちた学習機会の創造

重点施策(3) 若者が主体となるまちづくりの推進

- ・ 若者のイベントやまちづくり活動への積極的な参加を促進し、自分たちが住むまち、地域の文化、歴史等に深い愛着をもてるように努める。
- ・ 音楽活動など若者が主体的に取り組むイベントやまちづくり活動を支援する。

音楽を通じたまちづくり活動への支援							
担当課等	生涯学習・文化財課						
事業費(決算額)	1,300千円(前年度1,300千円)						
内容	<p>音楽を通じたまちづくりとして中心市街地で音楽イベントなどを展開するホームタウン実行委員会のライブコンサート事業の実施を支援する。</p> <p>中心市街地活性化のため、ウイング・ウイング高岡1階交流スペース(リトルウイング)でのイベントを開催する。</p>						
取組状況	<p>○ホームタウン</p> <p>音楽を通じたまちづくりとして中心市街地で音楽イベントなどを展開するホームタウン実行委員会のライブコンサート事業の実施を支援する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>1 feel the hometown Project Kikare~ma 2016「願い音の祭典」</p> <p>日時：平成28年8月7日(日) 場所：高岡大和横特設ステージ 出演者：たけしまこ、ピアノロッシ 他計5組</p> <p>動員数：約2,000人</p> </td> <td> <p>1 feel the hometown Project Kikare~ma 2017「願い音の祭典」</p> <p>日時：平成29年8月6日(日) 場所：高岡大和横特設ステージ 出演者： ①灯台 motor crisis (トウガ イモータークライシス) ②7!! (セブンウップス) 計2組</p> <p>動員数：約1,500人</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>2 feel the hometown Project Kikare~ma 2016 「そこたら10ライブ」</p> <p>日時：平成28年10月23日(日) 場所：クルンB1ステージ他 計11会場</p> <p>出演者：52組 動員数：約1,000人</p> </td> <td> <p>2 feel the hometown Project Kikare~ma 2017 「そこたら10ライブ」</p> <p>日時：平成30年2月4日(日) 場所：市内飲食店等 計11会場</p> <p>出演者：61組 動員数：約1,200人</p> </td> </tr> </tbody> </table>	平成28年度	平成29年度	<p>1 feel the hometown Project Kikare~ma 2016「願い音の祭典」</p> <p>日時：平成28年8月7日(日) 場所：高岡大和横特設ステージ 出演者：たけしまこ、ピアノロッシ 他計5組</p> <p>動員数：約2,000人</p>	<p>1 feel the hometown Project Kikare~ma 2017「願い音の祭典」</p> <p>日時：平成29年8月6日(日) 場所：高岡大和横特設ステージ 出演者： ①灯台 motor crisis (トウガ イモータークライシス) ②7!! (セブンウップス) 計2組</p> <p>動員数：約1,500人</p>	<p>2 feel the hometown Project Kikare~ma 2016 「そこたら10ライブ」</p> <p>日時：平成28年10月23日(日) 場所：クルンB1ステージ他 計11会場</p> <p>出演者：52組 動員数：約1,000人</p>	<p>2 feel the hometown Project Kikare~ma 2017 「そこたら10ライブ」</p> <p>日時：平成30年2月4日(日) 場所：市内飲食店等 計11会場</p> <p>出演者：61組 動員数：約1,200人</p>
平成28年度	平成29年度						
<p>1 feel the hometown Project Kikare~ma 2016「願い音の祭典」</p> <p>日時：平成28年8月7日(日) 場所：高岡大和横特設ステージ 出演者：たけしまこ、ピアノロッシ 他計5組</p> <p>動員数：約2,000人</p>	<p>1 feel the hometown Project Kikare~ma 2017「願い音の祭典」</p> <p>日時：平成29年8月6日(日) 場所：高岡大和横特設ステージ 出演者： ①灯台 motor crisis (トウガ イモータークライシス) ②7!! (セブンウップス) 計2組</p> <p>動員数：約1,500人</p>						
<p>2 feel the hometown Project Kikare~ma 2016 「そこたら10ライブ」</p> <p>日時：平成28年10月23日(日) 場所：クルンB1ステージ他 計11会場</p> <p>出演者：52組 動員数：約1,000人</p>	<p>2 feel the hometown Project Kikare~ma 2017 「そこたら10ライブ」</p> <p>日時：平成30年2月4日(日) 場所：市内飲食店等 計11会場</p> <p>出演者：61組 動員数：約1,200人</p>						

○リトルウイング賑わい創出事業

中心市街地活性化のため、ウイング・ウイング高岡1階交流スペースでのイベントを開催する。

平成 28 年度	平成 29 年度
<p>1 街角クラシック in Little Wing 「金 重軍・揚琴コンサート」</p> <p>日時：平成 28 年 6 月 4 日(土) 出演者：金重軍</p> <p>入場者数：49 人</p>	<p>1 SONGS LONG VACATION2017 Sparkle LIVE</p> <p>日時：平成 29 年 7 月 22 日(土) 出演者：so nice with 村松邦男・ Shangri-La with Club Band・ てんばってアレー！</p> <p>入場者数：76 人</p>
<p>2 SONGS LONG VACATION2016 Groovin' Live</p> <p>日時：平成 28 年 7 月 16 日(土) 出演者：MASA・アクアルーチェ・ colors</p> <p>入場者数：約 100 人</p>	<p>2 街角クラシック in Little Wing 「歌の花束 石川操ミニコンサート」</p> <p>日時：平成 29 年 8 月 20 日(日) 出演者：石川操、大巻雅子</p> <p>入場者数：73 人</p>
<p>3 街角クラシック in Little Win 「フルーツに乗せて 故郷の思い パートⅡ」</p> <p>日時：平成 28 年 7 月 24 日(日) 出演者：荻澤紀子・沢山朋子</p> <p>入場者数：96 人</p>	<p>3 街角クラシック in Little Wing 「ゆるカフェパートⅢピアノトリ オコンサート」</p> <p>日時：平成 29 年 9 月 24 日(日) 出演者：山口景子・谷口遙・ 嶋志保子</p> <p>入場者数：52 人</p>
<p>4 街角クラシック in Little Wing 「ゆるカフェ パートⅡピアノト リオコンサート」</p> <p>日時：平成 28 年 8 月 21 日(日) 出演者：山口景子・嶋志保子・ 谷口遙</p> <p>入場者数：69 人</p>	<p>4 街角クラシック in Little Wing 「ぴぺっと親と子のためのファミ リーコンサート」</p> <p>日時：平成 29 年 10 月 9 日(月・祝) 出演者：西野有香・中沖いくこ</p> <p>入場者数：36 人</p>
<p>5 街角クラシック in Little Wing 「冷静と情熱のあいだ with Flower Crowns～あふれる3人の心～」</p> <p>日時：平成 29 年 3 月 20 日(月・祝) 出演者：一ノ瀬浩子・守護菊野・ 村上笑吏</p> <p>入場者数：107 人</p>	<p>5 街角クラシック in Little Wing 「秋の夜長にシューベルト」</p> <p>日時：平成 29 年 11 月 29 日(水) 出演者：富川詩子・守護菊野・ 山田真吾・宮本龍一・ 森田夏海</p> <p>入場者数：94 人</p>

成果と課題	<p>音楽を通じて、若者の本市への関心を高めるとともに、若者同士で創意工夫を凝らし事業を運営することで交流を深めることができた。</p> <p>また、中心市街地で動員力のあるアーティストのライブを行うことで、市外、県外からの誘客にも貢献している。</p> <p>リトルウイング賑わい創出事業では、子供からお年寄りまで幅広い年齢の方々が参加し、様々な分野の音楽に親しんでもらうことができた。</p>
今後の方向性	<p>若者の社会活動や団体活動が衰退傾向にある中ではあるが、今後とも、若者にとって関心の高い音楽を媒体としたイベントを通じて、若者のネットワークづくりを支援するとともに、本市への愛着とまちづくりへの関心を高めてもらえるよう努めてまいりたい。</p>

評価
<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">(前年度B)</p>

基本方針3 うるおいと活気に満ちた学習機会の創造

重点施策(4) 生涯スポーツ活動の充実

- ・ (公財)高岡市体育協会を中心に、高岡市スポーツ推進委員や各種スポーツ団体との緊密な連携のもと、市民が主体的に参加できる機会の充実に努める。
- ・ 各種スポーツ・レクリエーション団体の育成と指導者の養成を図る。
- ・ 市民のスポーツ活動への参加を促進するため、イベント・行事予定等積極的な情報提供に努める。
- ・ 地域住民が主体的に運営し、誰もが気軽に参加できる本市に相応しい総合型地域スポーツクラブの設立の促進と既存クラブの育成や各地区・校下における住民の生涯スポーツの普及振興を図る高岡市体育振興会の支援に努める。
- ・ 市民のクラブ活動を支援するとともに各学校の体育施設の有効活用を図るため、学校体育施設開放事業の充実に努める。
- ・ (公財)高岡市体育協会や各種競技団体と緊密な連携・協力のもと、競技スポーツの育成強化と普及振興に努める。
- ・ 競技スポーツ指導者の養成とレベルアップに努める。
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、全国中学校選抜大会、ジュニアオリンピックなどの全国大会で上位入賞を目指し、計画的にジュニア選手層の強化育成策を展開し、競技スポーツ水準の向上に努めるとともに、開催効果を最大限に本市に引き込めるよう、全日本、海外のナショナルチームの事前合宿や国際大会、全国大会の誘致に努める。
- ・ 「高岡市スポーツ推進プラン(平成25年4月)」に基づき、市民のライフステージに合わせて参加し、楽しむことができるスポーツ環境の充実に努める。

市民スポーツ活動推進事業

担当課等	スポーツ課(平成29年度 体育保健課)		
事業費(決算額)	20,459千円(前年度20,459千円)		
内容	市民のスポーツニーズに対応した、各種スポーツ・レクリエーション大会とスポーツ教室を開催し、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、生涯にわたって健康と体力の保持を図る。		
	○大会・教室の参加者数		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市民体育大会	35種目 8,659人	35種目 8,111人	35種目 7,960人
市民スポーツ大会	9種目 1,358人	8種目 1,001人	9種目 1,161人
市民スポーツ・レクリエーション大会	15種目 約2,100人	15種目 約2,100人	15種目 約2,100名
万葉マラソン	1,863人	2,248人	1,748人
土曜っ子スポーツチャレンジ	4期 385人	4期 333人	4期 452人
スポーツ教室	76教室 延べ約11,000人	78教室 延べ約11,000人	81教室 延べ約11,000人
保育園・幼稚園運動能力向上支援事業	29園	29園	28園
富山マラソン	12,073人	13,615人	13,779人

○主な施設の利用状況

(単位：人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
市民体育館	95,395	102,252	96,629
城光寺野球場	42,170	38,912	31,027
城光寺陸上競技場	42,112	41,323	35,536
長慶寺室内プール	58,114	57,593	54,214
長慶寺SRホーム	16,587	17,954	16,677
前庭球場	16,962	16,074	14,785
万葉スポーツセンター	23,934	24,436	23,307
弓道場	21,833	21,659	17,327
庄川緑地	51,790	45,135	39,252
県営高岡武道館	36,731	38,205	35,508
スポーツコア	109,152	117,857	102,260
竹平記念体育館	94,784	101,627	79,149
スポーツ健康センター	33,533	38,937	41,905
西部総合公園	55,898	50,345	45,899
Uホール アリーナ	35,058	34,217	34,147
B&G海洋センター	55,974	55,409	50,138
西明寺パークゴルフ場	14,112	13,993	12,483

成果と課題

(公財)高岡市体育協会との緊密な連携のもと、効果的・効率的なスポーツ振興の運営を行うことができた。

第3回富山マラソンが開催され、1万3千人余りの県市内外のランナーが参加した。市役所前をスタートし、歴史ある高岡の街中をランナーが走り、沿道には応援する市民の姿があふれ、市民のスポーツに対する機運の醸成に寄与した。施設の利用者数は、昨年度に比べて全国規模の大会開催が少なかつたこともあり減少した。

各種スポーツ行事や教室には多くの参加者があり、今後とも関係団体との連携・協力により、ニーズに応じたスポーツ行事を展開する必要がある。

今後の方向性

市民誰もが、「いつでも、どこでも、だれとでも」スポーツに親しみ、楽しむことができるよう、適切な受益者負担のもとで、参加機会とスポーツ施設の充実に努めることで、ライフステージに応じたスポーツ活動に気軽に取り組める環境の整備を進めていく。

【施策に関する指標等】

高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
	2015年度	2017年度	2017年度	2021年度
体育施設の利用者数	836,440人	793,228人	840,000人	878,850人

評価

B

(前年度C)

選手育成強化事業																																																																					
担当課等	スポーツ課（平成 29 年度 体育保健課）																																																																				
事業費（決算額）	18,800 千円（前年度 22,388 千円）																																																																				
内容	全国大会での上位入賞、世界の舞台での活躍を目指し、ジュニア選手の育成強化を図る。また、生涯スポーツの振興と競技力の向上を図るため、北信越規模以上の大会に開催補助、全国大会、国際大会に出場する選手及び監督、コーチに派遣補助を行う。																																																																				
取組状況	<p>○ジュニア選手育成強化事業 重点育成強化種目…13 種目 ソフトテニス・柔道・バドミントン・水泳・レスリング・フェンシング・陸上・バレーボール・バスケットボール・相撲・卓球・サッカー・ハンドボール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>トレセン（練習）</th> <th>強化合宿</th> <th>遠征・試合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>ソフトテニス</td><td>161</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>柔道</td><td>120</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>バドミントン</td><td>300</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>水泳</td><td>23</td><td>-</td><td>2</td></tr> <tr><td>レスリング</td><td>90</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>フェンシング</td><td>16</td><td>-</td><td>1</td></tr> <tr><td>陸上競技</td><td>24</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>バレーボール</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>バスケットボール</td><td>1</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>相撲</td><td>-</td><td>-</td><td>3</td></tr> <tr><td>卓球</td><td>6</td><td>-</td><td>3</td></tr> <tr><td>サッカー</td><td>84</td><td>-</td><td>5</td></tr> <tr><td>ハンドボール</td><td>6</td><td>-</td><td>2</td></tr> </tbody> </table> <p>○全国大会開催・出場派遣補助事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催補助団体数</td> <td>16 団体</td> <td>16 団体</td> <td>12 団体</td> </tr> <tr> <td>出場補助人数</td> <td>904 人</td> <td>767 人</td> <td>800 人</td> </tr> </tbody> </table>	種目	トレセン（練習）	強化合宿	遠征・試合	ソフトテニス	161	-	-	柔道	120	-	-	バドミントン	300	-	-	水泳	23	-	2	レスリング	90	1	1	フェンシング	16	-	1	陸上競技	24	-	-	バレーボール	1	1	1	バスケットボール	1	-	-	相撲	-	-	3	卓球	6	-	3	サッカー	84	-	5	ハンドボール	6	-	2		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	開催補助団体数	16 団体	16 団体	12 団体	出場補助人数	904 人	767 人	800 人
種目	トレセン（練習）	強化合宿	遠征・試合																																																																		
ソフトテニス	161	-	-																																																																		
柔道	120	-	-																																																																		
バドミントン	300	-	-																																																																		
水泳	23	-	2																																																																		
レスリング	90	1	1																																																																		
フェンシング	16	-	1																																																																		
陸上競技	24	-	-																																																																		
バレーボール	1	1	1																																																																		
バスケットボール	1	-	-																																																																		
相撲	-	-	3																																																																		
卓球	6	-	3																																																																		
サッカー	84	-	5																																																																		
ハンドボール	6	-	2																																																																		
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度																																																																		
開催補助団体数	16 団体	16 団体	12 団体																																																																		
出場補助人数	904 人	767 人	800 人																																																																		
成果と課題	各競技団体の、中学生までの一貫指導体制づくりにより、数多くの児童・生徒が全国大会出場を果たした。今後とも、中学生までの継続した選手育成を図るとともに、競技スポーツの水準向上を図るため、選手強化策や指導体制の充実など、競技力向上のためのシステム確立が必要である。																																																																				
今後の方向性	2020 年東京オリンピック・パラリンピックを目指す、本市にゆかりのある選手を引き続き支援するとともに、東京大会以降、新たな選手達が全国大会、国際大会で活躍できるよう、トップレベルの選手の技術に触れられる機会や優秀な指導者による指導を受けられる機会の提供など、ジュニア選手の育成強化を進めていく。																																																																				

【施策に関する指標等】			
国民体育大会出場	平成 24 年度	平成 29 年度 (実績)	平成 34 年度ま での目標
富山県選手団に占める高岡市の割合	11.9%	14.7%	15%

評価
B (前年度 C)

トップアスリート支援事業																																									
担当課等	スポーツ課（平成 29 年度 体育保健課）																																								
事業費（決算額）	600 千円（前年度 600 千円）																																								
内容	世界を舞台に活躍する本市にゆかりのあるトップアスリートを市民あげて応援する。																																								
取組状況	<p>○強化支援金（活動支援金）</p> <p>トップアスリートとして認められた者に対し年額 10 万円を交付する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レスリング女子</td> <td>2 人</td> <td>2 人</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>バドミントン男子</td> <td>5 人</td> <td>3 人</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>バドミントン女子</td> <td>1 人</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>男子競歩</td> <td>—</td> <td>1 人</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>ハンドボール女子</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8 人</td> <td>6 人</td> <td>7 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○成績褒賞金</p> <p>オリンピックや世界選手権等の国際大会における優秀な成績を収めた者に対して交付する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レスリング女子</td> <td>1 人</td> <td>1 人</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>相撲男子</td> <td>1 人</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	レスリング女子	2 人	2 人	2 人	バドミントン男子	5 人	3 人	3 人	バドミントン女子	1 人	—	—	男子競歩	—	1 人	1 人	ハンドボール女子	—	—	1 人	合計	8 人	6 人	7 人		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	レスリング女子	1 人	1 人	—	相撲男子	1 人	—	—
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度																																						
レスリング女子	2 人	2 人	2 人																																						
バドミントン男子	5 人	3 人	3 人																																						
バドミントン女子	1 人	—	—																																						
男子競歩	—	1 人	1 人																																						
ハンドボール女子	—	—	1 人																																						
合計	8 人	6 人	7 人																																						
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度																																						
レスリング女子	1 人	1 人	—																																						
相撲男子	1 人	—	—																																						
成果と課題	男子バドミントンダブルスの園田・嘉村ペアが世界選手権 3 位入賞、BWF 世界ランキング 5 位に入った。また、女子レスリングの宮原選手がヤリギン国際大会優勝、男子バドミンントンの西本選手がフランスオープン、マレーシアマスターズで 2 位入賞するなど国際大会で活躍した。																																								
今後の方向性	今後も 2020 年東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、国際大会で活躍している本市にゆかりのある選手を支援していく。																																								

評価
B
(前年度 A)

オリンピック・パラリンピック対策事業	
担当課等	スポーツ課（平成 29 年度 体育保健課）
事業費（決算額）	2,869 千円（前年度 10,725 千円）
内容	2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツを通して参加国との人的・経済的・文化的な相互交流を図り、本市が持つ魅力を市民とともに高めながら、スポーツ振興をはじめ産業振興や文化振興、国際交流等、まちの活性化を推進する。
取組状況	平成 29 年 7 月 6 日にポーランドレスリング連盟と、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿やスポーツ交流に関する覚書を締結。翌 7 日には、ポーランド共和国を相手国（レスリング協議を主体）とした国のホストタウンに登録された。 12 月には大会マスコットキャラクターを決める投票、2 月には全国を巡回するフラッグツアーを実施した。
成果と課題	ホストタウンとなり、市民が地方にあっても東京オリンピック・パラリンピックを身近なものと感じ、積極的に関わっていく契機となった。 東京オリンピック・パラリンピックに向け、市民の関心と盛り上げるための機運を醸成することが必要。
今後の方向性	東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げるための機運を醸成し、市民が積極的に関わっていく契機とするとともに、スポーツのみならず、相手国との人的、経済的、芸術・文化的交流を通じ、地域の活力を引き出していくための取り組みを積極的に行っていく。

評価
B
（前年度 C）

基本方針3 うるおいと活気に満ちた学習機会の創造

重点施策(5) スポーツ施設の充実と効率的な活用

- 「高岡市スポーツ施設の整備方針（平成19年3月）」や「高岡市スポーツ推進プラン」に基づき、既存のスポーツ施設や新たな総合体育館等のスポーツ・レクリエーション施設の整備・検討を進める。
- スポーツ・レクリエーション施設の的確な管理運営については、市民との協働も視野に入れた効率的な活用に努める。

スポーツ施設の整備・管理運営

担当課等	スポーツ課（平成29年度 体育保健課）																																																																																
事業費（決算額）	303,316千円（前年度312,009千円）																																																																																
内容	本市のスポーツ施設は、市民体育館をはじめ老朽施設が多く、機能の維持を図るための整備・改修を行いながら、施設の廃止、集約化を行い、新たな総合体育館を建設したい。また、市民に身近なスポーツ活動の場である学校体育施設の効率的な利用を図るため統一した管理・運営方法を検討する。																																																																																
取組状況	<p>○主な施設の維持管理費（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民体育館・弓道場</td> <td>15,266</td> <td>15,266</td> <td>15,266</td> </tr> <tr> <td>城光寺運動公園</td> <td>27,041</td> <td>27,041</td> <td>27,041</td> </tr> <tr> <td>長慶寺プール・SRホール</td> <td>42,615</td> <td>42,615</td> <td>42,615</td> </tr> <tr> <td>スポーツ健康センター ※28年度から指定管理</td> <td>46,203</td> <td>28,835</td> <td>28,835</td> </tr> <tr> <td>西部総合公園</td> <td>58,252</td> <td>54,679</td> <td>54,192</td> </tr> <tr> <td>グラウンド・ゴルフ場</td> <td>9,198</td> <td>12,552</td> <td>12,009</td> </tr> <tr> <td>前庭庭球場</td> <td>7,750</td> <td>7,750</td> <td>7,750</td> </tr> <tr> <td>万葉スポーツセンター</td> <td>5,862</td> <td>5,862</td> <td>6,220</td> </tr> <tr> <td>スポーツコア</td> <td>26,485</td> <td>26,485</td> <td>26,485</td> </tr> <tr> <td>竹平記念体育館</td> <td>24,913</td> <td>24,913</td> <td>24,913</td> </tr> <tr> <td>B&G海洋センター・福岡テニスコート</td> <td>28,750</td> <td>28,750</td> <td>28,750</td> </tr> <tr> <td>アリーナ・フィットネスジム</td> <td>20,000</td> <td>20,000</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>西明寺パークゴルフ場</td> <td>3,250</td> <td>3,250</td> <td>3,250</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>315,585</td> <td>297,998</td> <td>297,326</td> </tr> </tbody> </table> <p>○主な施設の修繕の状況（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>修繕内容</th> <th>修繕費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高岡西部総合公園</td> <td>防草シート修繕</td> <td>2,376</td> </tr> <tr> <td>牧野中学校</td> <td>夜間照明修繕</td> <td>770</td> </tr> <tr> <td>国吉中学校・戸出中学校</td> <td>夜間照明修繕</td> <td>918</td> </tr> <tr> <td>赤丸トレーニングセンター</td> <td>屋根修繕</td> <td>431</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>4,495</td> </tr> </tbody> </table> <p>新たな総合体育館建設は、財政状況が非常に厳しく、当面の間、着工を見送る。2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿の受け入れや、2021年インターハイ開催に向け、竹平記念体育館を大規模修繕する。</p>				平成27年度	平成28年度	平成29年度	市民体育館・弓道場	15,266	15,266	15,266	城光寺運動公園	27,041	27,041	27,041	長慶寺プール・SRホール	42,615	42,615	42,615	スポーツ健康センター ※28年度から指定管理	46,203	28,835	28,835	西部総合公園	58,252	54,679	54,192	グラウンド・ゴルフ場	9,198	12,552	12,009	前庭庭球場	7,750	7,750	7,750	万葉スポーツセンター	5,862	5,862	6,220	スポーツコア	26,485	26,485	26,485	竹平記念体育館	24,913	24,913	24,913	B&G海洋センター・福岡テニスコート	28,750	28,750	28,750	アリーナ・フィットネスジム	20,000	20,000	20,000	西明寺パークゴルフ場	3,250	3,250	3,250	計	315,585	297,998	297,326	施設名	修繕内容	修繕費	高岡西部総合公園	防草シート修繕	2,376	牧野中学校	夜間照明修繕	770	国吉中学校・戸出中学校	夜間照明修繕	918	赤丸トレーニングセンター	屋根修繕	431	計		4,495
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																																																														
市民体育館・弓道場	15,266	15,266	15,266																																																																														
城光寺運動公園	27,041	27,041	27,041																																																																														
長慶寺プール・SRホール	42,615	42,615	42,615																																																																														
スポーツ健康センター ※28年度から指定管理	46,203	28,835	28,835																																																																														
西部総合公園	58,252	54,679	54,192																																																																														
グラウンド・ゴルフ場	9,198	12,552	12,009																																																																														
前庭庭球場	7,750	7,750	7,750																																																																														
万葉スポーツセンター	5,862	5,862	6,220																																																																														
スポーツコア	26,485	26,485	26,485																																																																														
竹平記念体育館	24,913	24,913	24,913																																																																														
B&G海洋センター・福岡テニスコート	28,750	28,750	28,750																																																																														
アリーナ・フィットネスジム	20,000	20,000	20,000																																																																														
西明寺パークゴルフ場	3,250	3,250	3,250																																																																														
計	315,585	297,998	297,326																																																																														
施設名	修繕内容	修繕費																																																																															
高岡西部総合公園	防草シート修繕	2,376																																																																															
牧野中学校	夜間照明修繕	770																																																																															
国吉中学校・戸出中学校	夜間照明修繕	918																																																																															
赤丸トレーニングセンター	屋根修繕	431																																																																															
計		4,495																																																																															

成果と課題	<p>各指定管理施設では、利用者アンケートを行い、利用のしやすさ、接遇態度、要望などを調査し、必要となる措置を行っている。市は、アンケート結果や施設の対応を確認し、より良い施設となるよう指導・助言等を行い、施設の質の向上に努めている。</p> <p>また、安全・安心な施設を提供するため、緊急度・優先度を考慮して施設整備に努めている。老朽化が進んでいる施設は、必要となる修繕・改修・設備更新等を行いながら、施設の在り方を踏まえ、廃止、譲渡、集約化などを行う。</p>
今後の方向性	<p>本市の大変厳しい財政状況のもと、老朽化等により多額の改修・更新費用が必要な施設については、高岡市公共施設再編計画に基づき、廃止、譲渡、集約化などを行う。</p>

【施策に関する指標等】				
高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
	2015 年度	2017 年度	2017 年度	2021 年度
学校体育施設開放の利用者数	341,340 人	322,600 人	348,450 人	362,250 人

評価
<p>B</p> <p>(前年度B)</p>

基本方針4 誇りをもって夢を語れるふるさとの創造

重点施策(1) 将来の生き方を考える教育の充実

- ・ 「高岡市子ども読書活動推進計画」を基本とし、読書や講演などを通して、先人の生き方に触れる機会を充実させ、児童生徒の生きる力をはぐくむ。
- ・ 環境教育や福祉教育等において、地域人材の活用を図り、様々な生き方や考え方にふれる場の設定に努める。
- ・ 郷土に関する副読本等を作成配布し、郷土の文化と伝統を大切にすることを心をはぐくむ指導を充実する。
- ・ ボランティア活動や社会に学ぶ「14歳の挑戦」など、様々な体験活動を生かし、将来の生き方について考えることができるよう、キャリア教育を系統的に推進する。
- ・ 「ものづくり・デザイン科」の学習を通して、郷土の伝統工芸や産業、優れた技術をもつ人々にふれ、豊かな感性と郷土を愛する心を育てる。
- ・ 「高岡の歴史文化に親しむ日」の制定を受け、児童生徒が歴史の薫る町並みや建造物を調べたり、地域固有の祭礼や年中行事に積極的に参加したりすることを通して、ふるさとのよさを実感し、「高岡」の歴史文化に誇りをもつ児童生徒の育成に努める。

ふるさと教育推進事業

担当課等	学校教育課									
事業費(決算額)	<table border="0"> <tr> <td>郷土学習費(小・中)</td> <td>2,402千円</td> <td>(前年度 2,557千円)</td> </tr> <tr> <td>高岡再発見プログラム事業費</td> <td>2,083千円</td> <td>(前年度 1,602千円)</td> </tr> <tr> <td>ふるさと教育推進事業費</td> <td>200千円</td> <td>(前年度 —)</td> </tr> </table>	郷土学習費(小・中)	2,402千円	(前年度 2,557千円)	高岡再発見プログラム事業費	2,083千円	(前年度 1,602千円)	ふるさと教育推進事業費	200千円	(前年度 —)
郷土学習費(小・中)	2,402千円	(前年度 2,557千円)								
高岡再発見プログラム事業費	2,083千円	(前年度 1,602千円)								
ふるさと教育推進事業費	200千円	(前年度 —)								
内容	郷土に関する副読本等を作成配付し、郷土の文化と伝統を大切にすることを心をはぐくむ指導を充実する。									
取組状況	<p>小学校3年生を対象に、「わたしたちの高岡市」「高岡市とそのふきん図」、中学校1年生を対象に、「高岡」「高岡市周辺図」を配付し、社会科の授業等で活用している。また、「ユネスコ無形文化遺産」に登録されたことを機に、高岡の歴史や文化の学習と関連を図りながら、幅広く活用している。</p> <p>「高岡再発見プログラム」は、小学校・特別支援学校に在籍している1～4年生の児童が、瑞龍寺や鋳物資料館等を訪れたり、高岡御車山祭や伏木曳山祭等を見学したりしている。「認定バッジ」や「高岡再発見グッズ」の獲得を目指し、学校からだけでなく、休日にも家族とともにスタンプラリーに取り組んでいる。</p> <p>「ユネスコ無形文化遺産」に「高岡御車山祭」が登録されたことから、5月1日を「高岡の歴史文化に親しむ日」とした。関連した取組として高岡の歴史や文化に関する作品募集を行い、小学校4年生は壁新聞、小学5、6年生は俳句、中学生には短歌を募集することで、高岡の魅力を再認識し、郷土を愛する心の教育の充実を図っている。</p>									

成果と課題	<p>副読本等は、社会科の授業の補助教材、総合的な学習の時間の郷土学習の資料として有効に活用され、郷土への理解に役立っている。高岡の歴史と文化の学習、「ものづくり・デザイン科」との関連も図りながら、児童生徒が郷土に対する誇りと愛着をもつ心を育むため、今後も授業等で効果的に活用を図るよう啓発していく必要がある。</p> <p>「高岡再発見プログラム」は、保護者が児童と一緒にスタンプラリーにチャレンジすることで、親子の会話が増え、ふれあいの時間も増えた。また、事業開始前に比べ、万葉歴史館や福岡歴史民俗資料館の小学生来館者数が増えている。シルバー、ゴールドコースの他に日本遺産コースを設け、参加への意識高揚を図っていく。今後もポイント箇所を増やし、低学年から積極的に高岡の魅力、よさを肌で感じ取れるようにしていく。</p> <p>「高岡の歴史文化に親しむ日」については、5月1日に御車山祭に出かけた小・中学生は約56%いた。保護者が勤務日である家庭もあり、高岡市全体の取組となるよう市内企業等への呼びかけを行っていく。また、御車山祭に限らず、日本遺産や各地域の歴史や文化、祭り等への関心を高め、児童生徒が郷土に対する誇りと愛着をもつ心を育むことができるように努めていきたい。</p>
今後の方向性	<p>郷土学習事業における学習資料の内容充実、児童生徒の意欲的な学習活動につながっている。今後、郷土教育や「高岡再発見プログラム」などと、高岡の歴史文化に関する作品募集等、との事業間の連携を図り、郷土を愛する心を育む教育の充実を図りたい。</p> <p>いずれの事業も、児童生徒の将来の生き方を考える重要な機会となるので、更なる改善を加え充実した取り組みになるよう努めていきたい。</p>

【施策に関する指標等】

高岡市総合計画 まちづくり指標		基準値	実績	目標	
		2015年度	2017年度	2017年度	2021年度
郷土に誇りをもつ心を育むことができた児童生徒・教員の割合	児童生徒	90%	92%	90%	90%
	教員	90%	96%	90%	90%

評価
A (前年度A)

社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	4,433千円(前年度4,430千円)
内容	学校・家庭・地域、産業界、及び行政機関が連携協力して、市内の全中学校2年生を対象に職場体験活動やボランティア活動を実施し、生徒の「生きる力」を育むとともに、家庭・地域の教育力の向上を図る。
取組状況	市内の全中学校2年生が、学校・家庭・地域、産業界及び行政機関の連携協力のもとに、5日間の職場体験活動やボランティア活動を行った。
成果と課題	活動を通して生徒の職業観・勤労観が高まり、同時に社会のマナーやルールを学ばせることができた。多くの生徒は5日間で大きく成長する。多様化する生徒の希望を叶えるための受入事業所への協力要請と、受入事業所側の要望・ニーズへの対応のバランスをいかにとるかが課題である。
今後の方向性	各地域を基盤として、社会に学ぶ「14歳の挑戦」を実施することにより、生徒が日々の学校生活と将来の生き方を結び付けて考えることができた。また、地域の一員としての所属感、一体感を味わわせることができ、大きな効果をあげている。毎年協力していただいている事業所に加え、新たに受け入れを申し出ていただく事業所もあり、地域で生徒を育てる雰囲気が定着してきている。今後も、地域・関係機関が一体となった教育を進めていく必要がある。

【施策に関する指標等】				評価
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	A (前年度A)
協力事業所数	428	403	417	

ものづくり・デザイン科推進事業	
担当課等	学校教育課
事業費(決算額)	15,457千円(前年度15,186千円)
内容	市内小学校5・6年生、中学校1年生を対象に、年間35時間の授業を実施している。市の伝統工芸である銅器、漆器(青貝塗・彫刻塗等)を中心に、地元産業についての体験学習を実施している。
取組状況	<p>ものづくり・デザイン科の作品展覧会(クリエイティブ・たかおか、工芸都市高岡2017クラフト展、児童・生徒によるものづくり展等)を開催し、取り組みを広くPRした。</p> <p>これまでの成果と課題を検証するため、アンケート調査を行った。クリエイティブ・たかおかにおいては、来場者数9,663人と前年度から367人増加し、保護者の関心も高まっている。クラフト展やものづくり展も同様に、来場者数が増加している。</p>
成果と課題	<p>教員と講師との綿密な連携により、児童生徒の満足度が高い取組ができた。今年度もクリエイティブ・たかおかを通して、児童生徒が伝統文化の継承につながりをもって取り組んでいる姿を地域に発信・PRできた。アンケート結果からは、児童生徒の97%が授業が楽しいと答え、保護者、教員、指導講師の95%以上が教育効果が高いと答えている。今後も、郷土学習や「高岡再発見プログラム」などとも関連を図りながら、郷土を愛する心の醸成に努めたい。</p>
今後の方向性	<p>ものづくり・デザイン科推進事業における伝統工芸についての体験的な学習は、郷土を愛する心の醸成につながっている。今後、郷土教育や「高岡再発見プログラム」などと、ものづくり・デザイン科との事業間の連携を図り、郷土を愛する心を育む教育の充実を図りたい。</p> <p>いずれの事業も、児童生徒の将来の生き方を考える重要な機会となるので、更なる改善を加え充実した取り組みになるよう努めていきたい。</p>

【施策に関する指標等】

アンケート調査で、「授業は楽しかったか(教育的効果は高いか)」との質問に対し、「とても楽しかった(とても効果が高い)」、「楽しかった(効果が高い)」と答えた児童生徒(保護者等)の割合

	H28	H29
児童生徒	96.6%	97.1%
保護者	97.1%	96.4%
教員	97.3%	93.6%
指導講師	100.0%	100.0%
平均	97.7%	96.7%

評価
A (前年度A)

基本方針4 誇りをもって夢を語れるふるさとの創造

重点施策(2) 歴史・文化資産を活かしたまちづくりの推進

- ・ 国宝「瑞龍寺」及び重要文化財「勝興寺」の保存修理事業を計画的に進める。
- ・ 重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山」の保存・活用に努めるとともに、計画的な保存・修理を進める。
- ・ 武田家住宅や佐伯家住宅をはじめとする建造物や美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物などの文化財の保存・活用に努めるとともに、未指定文化財の調査を実施する。
- ・ 重要伝統的建造物群保存地区「高岡市山町筋」や「高岡市金屋町」をはじめとする歴史的な町並み保存について市民の理解が深まるように努め、住民の意向を反映しながら町並みの保存整備を進める。
- ・ 重要無形民俗文化財「越中福岡の菅笠製作技術」の保存と振興を図るとともに、「越中福岡の菅笠製作技術保存会」の支援に努める。
- ・ 「歴史文化基本構想」、「歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり計画）」に基づいて、文化財を活かしたまちづくりを進める。
- ・ 西山歴史街道をコンセプトとする西山丘陵整備基本構想に基づいて、地域に根差した文化財の活用促進に努める。
- ・ ものづくりの人材の育成や伝統工芸品等の修理を通じて、伝統文化の保存と振興を図るとともに、歴史・文化を活かしたまちづくりを進める。

文化財保存修理事業

担当課等	生涯学習・文化財課		
事業費(決算額)	文化財管理事業費	34,766千円	(前年度 28,676千円)
	重要伝統的建造物群保存地区整備事業費	38,949千円	(前年度 54,197千円)
	瑞龍寺保存整備事業費	13,500千円	(前年度 13,500千円)
	勝興寺保存整備事業費	53,908千円	(前年度 41,206千円)
内容	国宝「瑞龍寺」や重要文化財「勝興寺」、重要伝統的建造物群保存地区、高岡御車山などの保存修理事業		
取組状況	<p>○瑞龍寺 瑞龍寺山門ほか8棟保存修理 事業期間：平成24～32年度 総事業費：108,522千円（602,900千円の18%補助） 【平成29年度事業内容】 大庫裏・鐘楼屋根こけら葺き替え完了、山門屋根こけら葺き修理中 事業費：13,500千円（75,000千円の18%補助）</p> <p>○勝興寺 大広間及び式台ほか11棟保存修理 事業期間：平成17～32年度 総事業費：310,299千円（5,171,700千円の6%補助） 【平成29年度事業内容】 書院・奥書院、御内仏、御霊屋修理中、鼓堂・経堂解体工事</p>		

	<p>事業費：30,000千円（500,000千円の6%補助） 勝興寺文化財デジタルアーカイブ事業 事業期間：平成28～30年度 【平成29年度事業内容】 勝興所有文化財の調査・整理・公開準備事業 事業費：2,014千円</p> <p>○重要伝統的建造物群保存地区 山町筋・金屋町重要伝統的建造物群保存地区における修理・修景</p> <p>伝統的建造物等の数</p> <table border="1" data-bbox="512 640 1386 824"> <tr> <td data-bbox="512 640 647 734">山町筋</td> <td data-bbox="647 640 1386 734">伝統的建造物（建築物）97棟、伝統的建造物（工作物）12件</td> </tr> <tr> <td data-bbox="512 734 647 824">金屋町</td> <td data-bbox="647 734 1386 824">伝統的建造物（建築物）113棟、伝統的建造物（工作物）12件、環境物件2件</td> </tr> </table> <p>修理・修景の状況</p> <table border="1" data-bbox="507 916 1382 1144"> <thead> <tr> <th data-bbox="507 916 624 949"></th> <th data-bbox="624 916 876 949">平成27年度</th> <th data-bbox="876 916 1128 949">平成28年度</th> <th data-bbox="1128 916 1382 949">平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="507 949 624 1048">山町筋</td> <td data-bbox="624 949 876 1048">修理2件 修景1件 事業費19,000千円</td> <td data-bbox="876 949 1128 1048">修理3件 事業費24,000千円</td> <td data-bbox="1128 949 1382 1048">修理5件 事業費17,096千円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1048 624 1144">金屋町</td> <td data-bbox="624 1048 876 1144">修理3件 修景1件 事業費24,280千円</td> <td data-bbox="876 1048 1128 1144">修理4件 事業費27,218千円</td> <td data-bbox="1128 1048 1382 1144">修理4件 修景1件 事業費21,293千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>○高岡御車山 事業期間：平成17年度～ 【平成29年度事業内容】 守山町車輪（前輪2輪・後輪2輪）及び通町がんばり人形胴体修理 事業費 20,000千円</p>	山町筋	伝統的建造物（建築物）97棟、伝統的建造物（工作物）12件	金屋町	伝統的建造物（建築物）113棟、伝統的建造物（工作物）12件、環境物件2件		平成27年度	平成28年度	平成29年度	山町筋	修理2件 修景1件 事業費19,000千円	修理3件 事業費24,000千円	修理5件 事業費17,096千円	金屋町	修理3件 修景1件 事業費24,280千円	修理4件 事業費27,218千円	修理4件 修景1件 事業費21,293千円
山町筋	伝統的建造物（建築物）97棟、伝統的建造物（工作物）12件																
金屋町	伝統的建造物（建築物）113棟、伝統的建造物（工作物）12件、環境物件2件																
	平成27年度	平成28年度	平成29年度														
山町筋	修理2件 修景1件 事業費19,000千円	修理3件 事業費24,000千円	修理5件 事業費17,096千円														
金屋町	修理3件 修景1件 事業費24,280千円	修理4件 事業費27,218千円	修理4件 修景1件 事業費21,293千円														
成果と課題	<p>文化庁や県の協力を得て、概ね計画に沿った事業実施を行うことができた。重要伝統的建造物群保存地区内の主屋の修理は、山町筋で約70%、金屋町で約20%完了しており、町並み景観の向上が図られた。今後は、大きな変化がある主屋の修理や非伝統的建造物の修景をさらにすすめ、保存地区内の町並みを回復させていかなければいけないが、所有者の意志がない限り、修理・修景事業の補助はできないため、所有者意識の向上をどのように図るかが課題である。</p>																
今後の方向性	<p>国宝「瑞龍寺」を始めとする有形文化財の計画的な保存修理事業の推進とその活用に引き続き努めていく。また、歴史的な町並みについて、住民に深い理解を求めながら、町並みの保存整備を進めていく。</p>																

評価
B (前年度B)

国宝・重要文化財等の保存・活用																																					
担当課等	生涯学習・文化財課																																				
事業費(決算額)	市内町並み保存対策事業費 124千円(前年度 186千円) 山町筋重要伝統的建造物群保存地区施設管理事業 2,989千円(前年度 2,972千円) まちなか歴史資産魅力向上事業費 5,306千円(前年度 24,948千円) 西山歴史街道整備事業費 500千円(前年度 500千円) 勝興寺デジタルアーカイブ事業費 2,014千円(前年度 1,000千円) 社会教育施設管理事業費 12,375千円(前年度 11,460千円)																																				
内容	「高岡市歴史文化基本構想」や「高岡市歴史的風致維持向上計画」に基づき、文化財の保存・活用や歴史・文化を活かしたまちづくりを進める。																																				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・武田家住宅、菅野家住宅、佐伯家住宅等で一般公開を実施中。 ・伏木北前船資料館、気象資料館、土蔵造りのまち資料館、鋳物資料館は、指定管理者制度による管理を行い、文化資産の活用を図っている。 ・28年12月、「高岡御車山祭の御車山行事を含む33件の山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録。 ・29年10月、「奥の細道サミット高岡大会」を開催。 <p>○歴史・文化施設入込者(各年1月1日～12月31日、単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>瑞龍寺</td> <td>247,088</td> <td>213,935</td> <td>175,820</td> </tr> <tr> <td>勝興寺</td> <td>11,749</td> <td>12,297</td> <td>14,880</td> </tr> <tr> <td>土蔵造りのまち資料館</td> <td>5,668</td> <td>4,901</td> <td>5,262</td> </tr> <tr> <td>鋳物資料館</td> <td>7,814</td> <td>7,816</td> <td>7,159</td> </tr> <tr> <td>伏木気象資料館</td> <td>1,439</td> <td>15</td> <td>3,819</td> </tr> <tr> <td>古城公園</td> <td>846,000</td> <td>833,500</td> <td>859,000</td> </tr> <tr> <td>御車山会館</td> <td>55,614</td> <td>57,575</td> <td>58,720</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,175,372</td> <td>1,130,039</td> <td>1,124,660</td> </tr> </tbody> </table>		平成27年度	平成28年度	平成29年度	瑞龍寺	247,088	213,935	175,820	勝興寺	11,749	12,297	14,880	土蔵造りのまち資料館	5,668	4,901	5,262	鋳物資料館	7,814	7,816	7,159	伏木気象資料館	1,439	15	3,819	古城公園	846,000	833,500	859,000	御車山会館	55,614	57,575	58,720	合計	1,175,372	1,130,039	1,124,660
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																		
瑞龍寺	247,088	213,935	175,820																																		
勝興寺	11,749	12,297	14,880																																		
土蔵造りのまち資料館	5,668	4,901	5,262																																		
鋳物資料館	7,814	7,816	7,159																																		
伏木気象資料館	1,439	15	3,819																																		
古城公園	846,000	833,500	859,000																																		
御車山会館	55,614	57,575	58,720																																		
合計	1,175,372	1,130,039	1,124,660																																		
成果と課題	歴史文化基本構想をもとに文化財の活用を図る環境拠点づくりに資する総合的な取組として、勝興寺を中心とした伏木地区文化財活用推進事業や御車山会館多言語案内アプリ制作事業、「貴重な資源を地域のために活かしていくためには」というテーマでワークショップを開催した。これらの活動を官民一体となって進めていくことにより、文化財活用に関する市民の意識向上と文化財の保存・活用との相乗効果を期待し、歴史まちづくりに繋げていく先駆けとなった。																																				
今後の方向性	平成23年3月に策定した「高岡市歴史文化基本構想」の基本方針や同年6月に国の認定を受けた「高岡市歴史的風致維持向上計画」の計画事業に基づき、国や県、関係機関等と連携の上、一層、文化財の保存・活用や歴史・文化を活かした地域活性化等を目指していく。																																				

【施策に関する指標等】

高岡市総合計画 まちづくり指標	基準値	実績	目標	
	2015年度	2017年度	2017年度	2021年度
歴史・文化施設 入込者数※	1,175,372人	1,124,660人	1,178,000人	1,210,000人

※瑞龍寺、勝興寺、土蔵造りのまち資料館、鋳物資料館、伏木気象資料館、古城公園、御車山会館

評価
B (前年度B)

基本方針4 誇りをもって夢を語れるふるさとの創造

重点施策(3) 埋蔵文化財の調査・研究・活用の推進

- ・ 国指定史跡「加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）」について、整備基本計画に基づく整備を進めるとともに、史跡の周知と価値の向上に努める。
- ・ 国指定史跡高岡城跡や市指定史跡守山城跡等の史跡について、学術的な価値を高めるよう努める。
- ・ 開発事業によって消滅のおそれのある遺跡について発掘調査を実施し、記録として保存するとともに、調査成果について研究を進める。また、現地説明会や遺物展示会の実施など、情報提供に努める。
- ・ 埋蔵文化財センターの事業を通して、埋蔵文化財の広報・普及に努める。

前田家関連史跡調査事業	
担当課等	生涯学習・文化財課
事業費(決算額)	6,111千円(前年度5,584千円)
内容	前田家関連史跡の保存整備事業を進めるとともに、歴史的な価値の証明及び向上が必要な守山城跡については、調査研究を図る。
取組状況	前田利長墓所については、内区・外区の樹木整理と5年間の整備事業をまとめた整備報告書を刊行した。 高岡城跡は、整備基本計画策定委員会を設置し、高岡城跡整備基本計画を策定した。 守山城跡は、縄張図の作成、平成27年～29年度の概要調査報告書を刊行した。
成果と課題	国史跡については、保存活用計画、整備基本計画を策定し順次整備事業を進めている。少しずつではあるが史跡の顕在化を図り、来訪者へ史跡の魅力が伝わるようにしている。しかし、まだまだ史跡の魅力が伝わっていない。 守山城跡は、基礎的な資料の蓄積を図っているが、今後は発掘調査などの価値の証明及び向上の事業を行う必要がある。
今後の方向性	前田利長墓所は、今後整備事業報告書に基づく、整備事業を計画し、第2次の整備事業を予定したい。 高岡城跡は、整備基本計画に基づき順次、整備事業を進める。 守山城跡は、詳細調査を進め、史跡指定に向けた準備を進める。

評価
B
(前年度B)

埋蔵文化財センター事業											
担当課等	生涯学習・文化財課										
事業費(決算額)	7,239千円(前年度6,013千円)										
内容	埋蔵文化財センターにおいて展示や体験事業の事業を実施し、埋蔵文化財の広報・普及に努める。										
取組状況	<p>平成27～29年度の3カ年の国庫補助(総額600万円)を受け埋蔵文化財センター整備を実施し、平成29年4月に新規オープン。施設整備と並行して体験学習や講演会等の事業を実施した。</p> <p>市内埋蔵文化財の通史展示や触れる展示等の常設展示を行っている。また、国庫補助を活用した古代体験学習を実施し、市内の遺跡出土品等に親しむ機会を提供し、共催・連携事業を3件実施した。</p> <p>入場者数 平成29年度3,100人 平成30年5月末現在 1,272人</p> <p>体験教室等の入場者数</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>勾玉づくり</td> <td>216人</td> </tr> <tr> <td>組みひもづくり</td> <td>98人</td> </tr> <tr> <td>鋳物づくり体験</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>その他体験</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>341人</td> </tr> </tbody> </table>	勾玉づくり	216人	組みひもづくり	98人	鋳物づくり体験	13人	その他体験	14人	合計	341人
勾玉づくり	216人										
組みひもづくり	98人										
鋳物づくり体験	13人										
その他体験	14人										
合計	341人										
成果と課題	<p>平成29年度の入館者数は3,100人、共催・連携事業の参加者は335名となった。地元の西広谷地区の文化財講座や市内の埋蔵文化財に関する講演会を実施し、アンケートでも好評な結果であった。</p> <p>今後も独自の企画展や西山丘陵の魅力を活かした展示、そして様々な事業を展開していく必要がある。</p>										
今後の方向性	<p>継続的な広報・普及活動を実施し、施設入館者・体験学習の収入増を目指して学校教育・生涯学習施設と連携した体験学習・講座を計画的に実施するとともに、西広谷地区と連携した事業を充実することで、地域に根ざした文化施設として運営したい。</p> <p>平成30年度は、ミニ企画展1回、地元連携事業1件に加え、夏・秋に特別体験学習に実施し、定期的に施設に人を呼び込む企画を実施することとしている。</p>										

評価
B (前年度 —)

IV 点検及び評価に対する外部有識者による意見

1 個性が輝き、可能性が花開く教育環境の創造

- ・ 教育委員会の施策とそれぞれの学校の熱心な取り組みが功を奏していると思う。今後は、双方ともに、具体的な指標や方策を明確にし、更に取り組みを重点化していくことが大切だと考える。特に学校においては、それぞれの特色を打ち出すことが今後一層求められるようになると思われる。長期的な展望に立ち、学校経営の軸となる取組を設定して教育課程全体に反映させていく必要がある。

(1) 創造性に満ちた学校経営の推進

(小中連携の推進)

- ・ 小中連携教育を進めていくという方針は素晴らしいと思うので是非進めていただきたい。その際には、何を中心に連携を進めるのかを明確にすることが大切だと思う。まずはポイントを絞って連携を図り、連携教育を日常的なものとするところから始めることが重要である。

(2) 確かな学力をはぐくむ学習指導の充実

- ・ 企業や組織の研修でもグループワークが大変有効である。人に説明し教えることで理解がさらに深まり、理解の早い児童生徒にもメリットがある。チームで高め合うことの良さも理解し、メンバーの絆が深まり、学ぶことに対するモチベーションが上がる効果もあると考える。
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果を見ると、全ての科目で全国平均を上回っており、先生方の取組に感服する。点数が全てを表しているとは思わないが、調査結果を一つの参考として、PDCAの発想をもって、引き続き、児童生徒の学力をけん引していってほしい。

(3) 豊かな心をはぐくむ教育の推進

- ・ 「いじめ」、「図書館機能」はいずれも大事な視点であるが「豊かな心をはぐくむ」といった場合、思いやり、協調性、感受性、リーダーシップなど、社会に出た後、「幸せに生きていくための力」の習得が非常に重要と考える。
- ・ 学校での学習で最も大切なことは、やりっぱなしにしないことである。授業や体験で得たものを、どのように自分の生き方に反映していくかを考

えることが大切である。そうすることによって多様な価値観を学ぶことができ、相手を思いやる気持ちも芽生えてくる。そのためにも教員には子供たちの些細な変化をも見逃さない鋭い感性が求められる。

- ・ いじめ対策も含め、道徳教育は大変重要な学びだと考える。人はそれぞれ違いがあって当たり前であり、そうした様々な価値観の人とお互いを尊重し合う意識を醸成する必要がある。相手の痛みを理解し、自己肯定感を持って自分も他人も大切にできる子供たちの育成が重要と考える。

(4) 健やかな体をはぐくむ教育の充実

- ・ 中学生にとっての部活動は、「徳・体」を鍛錬し、友情を育むうえで、重要な役割を担っている。また、フッ化物洗口が高岡市でも導入されることを歓迎する。

(5) 情報化、国際化に対応した教育の推進

(ICT環境の整備・活用)

- ・ ICT環境の整備・活用は、これからの「情報リテラシー」を身につけてもらうための必須要素である。一方、SNSを利用するモラル、節度についても、学校、家庭が協力して進めていくことが重要と考える。
- ・ 新学習指導要領で必修化されるプログラミング教育は、難しく考えられがちであるが、ゲーム感覚で楽しく学習できるものを活用するなど、児童生徒の興味が高まる手法で学びを深めてほしい。
- ・ 今の子供たちはスマートフォンやタブレットを日常的に使っており、ICT機器などに対する対応力は非常に高い。むしろ大人の方が上手く活用できていないので、若い教員が年配の教員のフォローをするなど、学校全体でICT化に対応する必要がある。

(国際理解教育推進事業)

- ・ 少人数教育や国際理解教育等で、児童生徒の学習意欲の向上が見られるなど、着実に成果が表れている。今後は、外国語活動等授業における学習成果を教育課程の様々な場面で生かしていくこと(JTEやALTの多様な活用を含む。)が課題である。日常的に英語に触れる場を仕組んでいくことにより、真の力が身に付くものと考ええる。
- ・ 外国人児童生徒の学習と受け入れを積極的に行うことは、子供たちの国際理解の機会の充実と、外国人の方の社会参加につながり、これからグローバル時代に向けて重要なことだと考える。

(6) 特別支援教育の推進

- ・ 世の中には様々な人がいることを理解し、互いに尊重する気持ちを持って、当たり前に関社会の一員として受け入れられるよう、ダイバーシティ的な意識を持った子供たちを育成していく必要があると考える。

(7) 教育効果を高める教育環境の整備

(学校施設等の改修、整備事業)

- ・ エアコンの導入を求める声が増しに高まっており、計画的、段階的な普通教室へのエアコン導入の検討をお願いしたい。また、子供たちの命を守る観点から、登下校時、授業を受ける際の、服装、飲料、保冷材の使用等に、弾力的な対応、指導をお願いしたい。

(学校規模適正化事業)

- ・ 平成 29 年度は、「各中学校区での意見交換会」や「これからの高岡の教育を考える懇談会」を開催され、本市の教育の将来像を真摯に考える意欲的な姿勢を感じた。保護者の間でも、小規模化がもたらす危機感は、次第に共有する範囲が広まってきている。ソフト、ハードの両面の理由から、引き続き、スピード感をもって、「学校規模適正化」、「小中連携、小中一貫教育」の検討を進めていってほしい。

2 社会全体で人を育む絆の創造

(1) 学校、家庭、地域の連携による児童生徒の健全育成

(小学校地域学習サポート事業)

- ・ 中学校における地域人材の活用が、全国や県に比べ低い状況にあるが、中学生の年代には、「学ぶ動機づけ」、「将来の目標を定める」意味で、外部講師を積極的に招聘することが有用と考える。
- ・ 各学校では、座学だけではなく、外に出て学ぶ機会を増やしてもらいたい。同じような授業を受けるのではなく、各学校が地域の特色を活かした独自の教育を推進することが子供たちにとっても大事なことだと思う。

(学校評価・学校評議員)

- ・ アクションプランや学校評価はホームページで公開し、誰もがその学校のことを理解できるようにしたほうがいいと思う。

(学校安全対策)

- ・ 昨今の社会情勢に鑑み、「防犯カメラの設置」による防犯・安全対策を推進してほしい。

(3) ふれあいと語らいの生まれる生涯学習の機会と場の提供

(二上まなび交流館企画事業)

- ・ 学校の活動で施設を利用する場合、市内にある施設だからという面はあると思う。なければ、市外のより良い施設を利用することになると思うので、施設が存続するのであれば、魅力ある施設にしていかなければならない。

(五位山交流館企画事業)

- ・ 多種多様なイベントが開催されており、参加者には非常に満足度の高い事業ではないかと思う。今後は、いかに集客するかが課題である。また、施設維持の面から、参加費は適正な価格設定に努めてもらいたい。

3 うるおいと活気に満ちた学習機会の創造

(3) 若者が主体となるまちづくりの推進

- ・ 当初は著名なアーティストが出演し、盛り上がっていた記憶があるが、近年は地元アーティストが中心となっている。地元を応援するという意味では良いかもしれないが、事業の盛り上がりを考えると、もう一度中身について考え直す時期にきているのかと思う。

(5) スポーツ施設の充実と効率的な活用

- ・ 高齢者の健康や生きがいづくりの推進のため、コミュニティ機能も併せ持つシニア向けのスポーツ施設が必要である。現存の施設や学校などの遊休施設を活用することで、老朽化した施設の活用と改修への対策にもつながると考える。
- ・ 民間のフィットネスクラブで、24時間営業だが夜間は従業員を置かず、利用者がカードキーで出入りできる形態のものがある。指定管理者制度による経費削減にも様々な方法を検討する必要があると思う。
- ・ 指定管理者は、施設の活用方法などをオープンにして、県内だけでなく、広い範囲に周知していけば、もっと有効に管理できる団体が現れるのではないかと期待している。

4 誇りをもって夢を語れるふるさとの創造

(1) 将来の生き方を考える教育の充実

- ・ 社会に学ぶ「14歳の挑戦」、「ものづくり・デザイン科」、「高岡再発見プログラム」等の事業は、改善を加えながら発展的に実施されてきたことにより、ふるさと高岡や地域産業に魅力を感じ、自らが後継者になりたいという児童生徒が出てくるなど、期待される成果につながっている。さらなる充実を図っていただきたい。
- ・ キャリア形成のために若いうちから自分の将来について考え、将来の仕事について考えることが必要になってきている。学校だけで学ぶのは難しいと思うので、地元企業と連携しながら進めていけばいいと思う。また、選挙は社会を形成するために重要なものなので、小さいころから選挙に興味を持つことも大事だと思う。
- ・ 子供たちは、立山登山、宿泊学習、合唱コンクール、クリーン大作戦、田植え、外国の方との交流など様々な体験をさせてもらっている。一般的な勉強はもちろん大切だが、教員にはこうした活動を通して生きるということはどういうことかを子供たちに教えていただきたい。そして、それを高岡スタイルとして確立してもらいたい。

(社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業)

- ・ 富山県ならではのこの事業は、保護者の目からも、心強い事業に映る。一部の中学校で実施されている、「13歳の予習」、「15歳の復習」も、高岡版スタンダードになればと希望する。

(ものづくり・デザイン科推進事業)

- ・ 技術を学ぶだけでなく、講師の方の生き方から様々なことを学び、自分の生き方を考えてもらいたい。